



キョショー

ガショー
© 2006 JA-KYOSAI

第 66 回 (令和 4 年度)

JA 共済 児童生徒 作品コンクール

入賞作品集

作文の部・書道の部 (条幅 半紙)・絵画の部・交通安全ポスターの部



JA共済連 岩手

<https://www.jakyosai-iwate.com>

■主催 / 岩手県内各農業協同組合・全国共済農業協同組合連合会岩手県本部
■後援 / 岩手県・岩手県教育委員会・岩手県警察本部・岩手日報社・IBC岩手放送
テレビ岩手・めんこいテレビ・岩手朝日テレビ・エフエム岩手

第66回(令和4年度) JA共済 児童生徒作品コンクール入賞作品集

もくじ

ごあいさつ	②
全国共済農業協同組合連合会岩手県本部 県本部長 菊池 秀峰	
応募種目・課題	③
審査委員・後援団体・応募点数一覧表	⑤
経過	⑥
J A 共済児童生徒作品コンクール66年のあゆみ	⑥
作文を審査して	⑧
元岩手大学教職大学院特命教授 小岩 和彦 岩手県教育委員会事務局学校教育室 主任指導主事 後澤 大世	
作文の部 入賞作品	⑨
書道を審査して	⑳
岩手書道協会 参与 八木橋 哲男	
書道〈条幅の部〉入賞作品	㉑
書道〈半紙の部〉入賞作品	㉒
絵画・交通安全ポスターを審査して	㉔
元岩手県小学校教育研究会図画工作部会 会長 小松 太	
絵画の部 入賞作品	㉗
交通安全ポスターの部 入賞作品	㉙
第66回(令和4年度)J A 共済児童生徒作品コンクール入賞者名簿	㉛

※入賞作品は紙面の都合上、各部門とも金賞以上の入賞作品のみ紹介しました。

ごあいさつ

全国共済農業協同組合連合会岩手県本部
県本部長 菊池 秀峰



第66回 J A 共済児童生徒作品コンクール作品集の発行にあたり、参加された県内各小・中学校、義務教育学校、特別支援学校の皆さんに心からお礼申し上げます。

このコンクールは、共済事業のもつ相互扶助と思いやりの精神を、次の世代を担う小・中学生に普及させることを目的として、昭和32年から実施しております。

おかげさまで、このたび66回を数えることとなりましたが、今年度も県内7JAすべての実施により、203校2,427点にも及ぶ作品が寄せられました。

応募された作品はいずれもみな優秀であり、さらに年々質的向上が見られ、審査にあられた先生方からも、名実ともに県内屈指のコンクールであるとの高い評価を得ております。

これもひとえに、参加された児童生徒の皆さんをはじめ、指導にあられた諸先生方、ご家族の皆様の熱意と努力のたまものと、深く敬意と感謝を表します。

児童生徒の皆さんが、このコンクールへの参加を通じて「みんなで助け合う」という相互扶助と思いやりの精神を育み、将来立派な社会人となられることを期待するとともに、この経験が一人ひとりの人間形成に大きく役立つものと信じてやみません。

コンクール実施にあたり、ご尽力いただきました小岩審査委員長をはじめ、審査委員の先生方、ご後援いただきました岩手県・岩手県教育委員会、岩手県警察本部、株式会社岩手日報社、株式会社IBC岩手放送、株式会社テレビ岩手、株式会社岩手めんこいテレビ、株式会社岩手朝日テレビ、株式会社エフエム岩手ほか関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

今後とも、歴史あるこのコンクールを、関係者皆様のご支援のもとに継続して実施し、児童・生徒の情操教育活動をさらに進めてまいりたいと考えております。

応募種目・課題

作文の部

小 学 生	第1学年	大すきな こと	1・2年生のみなさんの大すきなことはなんですか。かぞくとのこと、がっこうでのこと、ともだちとのことなどなど、大すきなことをしょうかいしながら、大すきなわけやできごと、そのときの気持ちにもふれながら書きましょう。
	第2学年		
	第3学年	今も つづけて がんばって いること	3・4年生のみなさんがつづけてがんばっていることはありますか。今もつづけてがんばっていることについて、その内ようをくわしく紹介しながら、つづけられている理由や今の自分の気持ち、これからの目標などにふれながら書きましょう。
	第4学年		
	第5学年	私が大事に している言葉	5・6年生のみなさんの大事にしている言葉はありますか。大事にするようになったのはなぜですか。大事にしている言葉との出会いやきっかけ、大事にしている理由など、具体的な出来事を取り上げながら、自分の思いや願いなどについて書きましょう。
	第6学年		
中 学 生	持続可能な 社会に向けて 取り組みたい こと	今、世界では、「持続可能な社会」の実現に向けた取組が様々な分野から実践されています。現在の社会問題や課題を取り上げ、持続可能な世界を築くためにこれから何をしていたらよいのか、自分にはどんなことができるかなど、自分の学習経験や様々な体験、世の中の出来事などと結び付けながら、自分の考えを書きましょう。	

書道の部

区 分		条 幅 の 部	半 紙 の 部
小 学 生	第1学年	い ろ り	み ち
	第2学年	な か ま	ほ た る
	第3学年	竹 と ん ぼ	ひ ま わ り
	第4学年	雪 わ り 草	友 達
	第5学年	緑 の 草 原	喜 び の 歌
	第6学年	認 め 合 う 心	発 芽 の 時
中 学 生	第1学年	個 性 の 尊 重	蛍 雪 の 功
	第2学年	郷 土 の 魅 力	大 願 成 就
	第3学年	花 舞 う 季 節	農 業 技 術

絵画の部

小学生は、次の3つのうちから1つを選び丁寧に描きこみましょう。		
1	お気に入りの校舎	通学路から見える校舎や校庭から見た校舎もいいですし、校舎内のお気に入りの場所をかいてみるのもいいですね。あなたの学校（校舎）のステキな場面や場所を見つけて、くわしくていねいにかきましょう。
2	楽しい学校行事	楽しかった学校行事のことを思い出して、あなたの好きな場面、楽しかったことをくわしくていねいにかきましょう。
3	好きな動物の絵	牛や馬など様々な動物の中から、あなたの好きな動物を見つけて、色や形、雰囲気などをくわしくていねいにかきましょう。
中学生は、次の3つのうちから1つを選び丁寧に描きこみましょう。		
1	校舎 ～私の大切な場所～	普段見慣れた場所でも、光のあたり方や影の調子によってさまざまな表情があるものです。校舎の中で「美しい」とか「いいなー」と思う、あなたにとって大切な場所を見つけ、形や色・タッチの工夫をして描きましょう。
2	心に残る風景	身近な風景の中から、あなたの心に強く残る魅力的な場所を見つけ、その感動が伝わるように形や色・タッチの工夫をして描きましょう。
3	道のある風景	通いなれた道、どこまでも長く続く道、曲がりくねった道、大きな道路、細い道、坂（上り坂、下り坂）のある道・・・、様々な道のある風景から、あなたが心ひかれる場所を探し形や色・タッチの工夫をして描きましょう。

交通安全ポスターの部

小学生 中学生	交通安全を訴えるためのポスターとします。
	(1) 子供向けまたは歩行者向けの交通安全ポスター (児童・生徒に交通法規や規則を守らせようとするもの。) (2) 運転者向けの交通安全ポスター (自動車・バイク・自転車などを運転する人に交通事故の防止を呼びかけるもの。)

※書道・交通安全ポスターは、全国コンクール出品のための地方コンクールも兼ねています。

審査委員

- 審査委員長 小岩和彦 元岩手大学教職大学院特命教授
- 審査委員 後澤大世 岩手県教育委員会事務局学校教育室 主任指導主事
- 南部一成 岩手県警察本部 交通部 参事官兼交通企画課長
- 八木橋哲男 岩手書道協会 参与
- 小松太 元岩手県小学校教育研究会図画工作部会 会長
- 川村公司 株式会社岩手日報社 常務取締役 広告事業局長
- 井上雅晴 株式会社IBC岩手放送 営業局長
- 池田学 株式会社テレビ岩手 常務取締役 関連会社担当・経営企画局長兼技術局長
- 一戸俊行 株式会社岩手めんこいテレビ 取締役 報道担当
- 藤武義隆 株式会社岩手朝日テレビ 編成業務局長兼業務部長兼経営企画室
- 松尾尚人 株式会社エフエム岩手 常務取締役
- 菊池秀峰 全国共済農業協同組合連合会 岩手県本部長

後援団体

- 岩手県・岩手県教育委員会
- テレビ岩手
- 岩手県警察本部
- めんこいテレビ
- 岩手日報社
- 岩手朝日テレビ
- IBC岩手放送
- エフエム岩手

応募点数一覧表

種目別	学年別	小学校							中学校				合計	昨年実績	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年	2年	3年	小計		前年比(%)	
書道 (条幅の部)	参加総点数	12	11	21	33	30	29	136	21	14	33	68	204	222	91.9
	コンクール応募点数	12	11	20	33	30	29	135	21	14	33	68	203	222	91.4
書道 (半紙の部)	参加総点数	63	110	127	170	144	122	736	61	41	71	173	909	886	102.6
	コンクール応募点数	63	110	125	159	127	122	706	61	41	66	168	874	861	101.5
絵画	参加総点数	32	17	12	12	9	18	100	16	101	69	186	286	425	67.3
	コンクール応募点数	21	17	12	12	9	18	89	3	13	16	32	121	139	87.1
交通安全 ポスター	参加総点数	10	160	292	246	31	19	758	29	21	6	56	814	1,017	80.0
	コンクール応募点数	10	19	53	48	20	13	163	13	9	4	26	189	177	106.8
作文	参加総点数	30	8	9	16	2	5	70	34	54	56	144	214	170	125.9
	コンクール応募点数	7	8	9	16	2	5	47	21	26	25	72	119	73	163.0
学年別 合計	参加総点数	147	306	461	477	216	193	1,800	161	231	235	627	2,427	2,720	89.2
	コンクール応募点数	113	165	219	268	188	187	1,140	119	103	144	366	1,506	1,472	102.3

●本年度参加学校数 203校（小学校 144校、中学校 59校）昨年度参加学校数 205校（小学校 142校、中学校 63校）

経過

▼10月18日(火) 審査会



5月24日(火)

- 審査委員打合せ会を书面開催し、「作品コンクール実施要項(案)」や日程等について協議
- 審査委員長として、小岩和彦氏を選出

6月23日(木)

- 県下各小・中学校、義務教育学校、特別支援学校に対し、各JAを通じて第66回作品コンクールの実施通知並びに「作品コンクール実施要項」を配布

9月1日(木)

- 応募締切り
 - 応募作品は以下の通り
- | | |
|-------|--------|
| 参加校 | 203校 |
| 参加組合 | 7JA |
| 参加総点数 | 2,427点 |
| 応募点数 | 1,506点 |

9月13日(火)～9月29日(木)

- 第1次審査(事前審査)を各担当審査委員により実施し、各種目別・学年別に書道条幅の部・半紙の部より7点ずつ、絵画の部・作文の部より8点ずつ、交通安全ポスターの部より10点を選抜

10月18日(火)

- 審査会を実施し、全審査委員による最終審査を実施

11月4日(金)

- 全国書道・交通安全ポスターコンクールへの出品(書道・交通安全ポスターの各学年最高位作品)

11月7日(月)

- 入賞者・入賞校への決定通知、入賞者名簿を各JA・参加校へ発送

12月13日(火)

- 第66回作品コンクール表彰式を開催
- 入賞者・入賞校を「岩手日報」新聞紙上に発表
- 入賞作品のWeb展示会をJA共済連岩手ホームページで公開

2月7日(火)、2月14日(火)

- 「JA共済にじいろのかけはし」(エフエム岩手)の放送
- ※12:00～12:55(全2回)
※作文の部の特選2作品、金賞9作品を受賞者本人の朗読で紹介

JA共済児童生徒作品コンクール66年のあゆみ

- ◎昭和32年度(第1回) 第1回農協愛児共済全国書道コンクールの開催に伴い、地方予選をかねて農協共済児童作品コンクール(県共済連主催)を開始。種目は書道(半紙)のみであったが、全国最高賞である金賞を岩谷堂小学校4年横山和子さんが受賞。
- ◎昭和34年度(第3回) 応募の対象を小学校に加え、中学校に拡大する。また、本会主催のコンクール応募種目に図画、作文を新たに加える。
- ◎昭和43年度(第12回) 本会主催のコンクールの名称を農協共済児童・生徒作品コンクールに改称する。全国書道コンクールに文部大臣奨励賞を設置。
- ◎昭和46年度(第15回) 地区審査会を廃止し、県審査会のみに変更。
- ◎昭和47年度(第16回) 全国コンクールに書道のほか、農協共済全国小・中学生交通安全ポスターコンクール(第1回)が開始される。最高賞として、総理府総務長官賞を設置。

- ◎昭和49年度(第18回) 本会主催のコンクール応募種目に交通安全ポスターを新たに加える。
- ◎昭和51年度(第20回) コンクール20回を記念し、出品応募校に対し、シダレ桂を贈呈。
- ◎昭和52年度(第21回) 全国ポスターコンクール(第6回)に警察庁長官賞を設置。同コンクールで本県で初めて最高賞の総理府総務長官賞を花泉町立金沢小学校2年の菅原久恵さんが受賞。
- ◎昭和56年度(第25回) コンクール25回を記念して、出品応募校に対し、チャボヒバを贈呈。
- ◎昭和61年度(第30回) 30回記念特別賞として、これまで優秀学校賞を最も多く受賞した二戸市立釜沢小学校、江刺市立江刺第一中学校の2校に「最多優秀学校賞」を授与する。また、30回までの特選者による「特選者の集い」を開催する。
- ◎昭和62年度(第31回) コンクール入賞作品展示会を川徳デパートにて開催する。全国交通安全ポスターコンクールで、本県で初めて警察庁長官賞を一関市立舞草小学校3年の齋藤諭さんが受賞。
- ◎昭和63年度(第32回) コンクール入賞作品展示会を(株)テレビ岩手にて開催(絵画・作文の部に於てこの年に限り、特選の他に特別金賞を設ける)。
- ◎平成2年度(第34回) 全国コンクールでは作文・絵画部門が設けられていないため、今回より各々の特選を2点とし、特別賞においても岩手県知事賞を設けた。
- ◎平成3年度(第35回) コンクール35回を記念し、カレンダー(友達の作品集)を作成。県下各農協、小・中学校、特別支援学校に配布した。
- ◎平成5年度(第37回) 各部門を通じて優秀な学校に対し、特別賞を新設した。
- ◎平成8年度(第40回) 全国交通安全ポスターコンクール(第25回)で文部大臣奨励賞を江刺第一中学校2年の梅原彩香さんが受賞。
- ◎平成9年度(第41回) 全国交通安全ポスターコンクール(第26回)で文部大臣奨励賞を東山中学校1年の佐藤春奈さんが受賞し、本県より2年連続文部大臣奨励賞作品が出た。
- ◎平成10年度(第42回) 過去のコンクールにおいて、入賞した作文作品を、FM岩手「JA共済にじいろタイムカプセル」で紹介する放送を開始した。
- ◎平成12年度(第44回) 作文部門で優秀な学校に対し、特別賞を新設した。
- ◎平成13年度(第45回) 全国交通安全ポスターコンクール(第30回)で文部科学大臣奨励賞を和賀東小学校5年の近藤菜さんが受賞。
- ◎平成15年度(第47回) 全国交通安全ポスターコンクール(第32回)で文部科学大臣奨励賞を黒石小学校1年の北條恵理さんが受賞。
- ◎平成18年度(第50回) JA共済児童生徒作品コンクールを開催し第50回を迎える。「JA共済にじいろのかけはし」(エフエム岩手)が好評につき、アンコール放送を実施。
- ◎平成19年度(第51回) 全国交通安全ポスターコンクール(第36回)で内閣府特命担当大臣賞を岩手大学教育学部附属小学校1年の久慈春花さんが受賞。
- ◎平成22年度(第54回) 全国交通安全ポスターコンクール(第39回)で文部科学大臣奨励賞を大船渡市立越喜来小学校3年の窪田創さんが受賞。
- ◎平成25年度(第57回) 全国書道コンクール(第57回)で農林水産大臣賞を一関市立山目中学校2年の千葉優稀さんが受賞。
- ◎平成28年度(第60回) JA共済児童生徒作品コンクールを開催し60回を迎え、記念部門として「防災ポスターの部」を設定した。
- ◎平成29年度(第61回) 全国交通安全ポスターコンクール(第46回)で農林水産大臣賞を北上市立江釣子小学校4年の小林るいさんが受賞。
- ◎令和元年度(第63回) 全国書道コンクール(第63回)で農林水産大臣賞を滝沢市立鶺鴒小学校1年の柳谷歩希さんが受賞。
- ◎令和2年度(第64回) 新型コロナウイルス感染拡大に鑑み中止。
- ◎令和3年度(第65回) コンクール入賞作品のWeb展示会を開催。作文の部の入賞者本人による朗読を収録し掲載。全国交通安全ポスターコンクール(第50回)で文部科学大臣賞を大船渡市立立根小学校3年の金野瑠奈さんが受賞。

作文を審査して



審査委員長 元岩手大学教職
大学院特命教授

小岩 和彦



岩手県教育委員会事務局
学校教育室 主任指導主事

後澤 大世

今年も県内の多くの学校から、素晴らしい作品が寄せられました。どの学年の作品も、自分が体験したことや学習したことを通して味わった感動や達成感、気持ちの変容や新たに生まれたものの見方や考え方などについて、生き生きと文章に表現していました。それぞれの作品に綴られている言葉には、子供たちの豊かで鋭い感性、そして純粋な思いや優しさが込められていました。どれも心温まる希望に満ちあふれた素敵な作品でした。

今年の作文の課題は、小学校低学年は「大きなこと」、中学年は「今もつづけてがんばっていること」、高学年は「私が大事にしている言葉」、中学校は「持続可能な社会に向けて取り組みたいこと」でした。

小学校低学年の作品は、自分が夢中になったり大事にしたりしていることを取り上げて、具体的な体験やエピソード、自分の素直な気持ちや思いなどについて伸び伸びと表現していました。

中学年の作品は、学習や習い事、スポーツ、趣味など自分が継続して頑張っていることを取り上げ、努力する過程を通して生み出された思いや気持ちの変容に触れながら、努力を積み重ねることの意義や喜びを豊かに描いていました。

また、高学年の作品は、自分が大事にしている言葉や先人の格言などを取り上げて、これまでの経験や体験などと結び付けながら、大事にしている言葉の意義を改めて見だし、これからの自分

自身の夢や決意について述べていました。

中学生の作品は、環境問題や貧困、平和やジェンダー平等などのSDGsに関わるテーマを取り上げ、学習などで得た知識やこれまでの様々な経験と結び付けながら、持続可能な社会を実現するために自分にできることは何かについて、自分の考えを率直に述べていました。

現在の社会はVUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代だと言われています。このVUCAの時代において、文化や言語、価値観の壁を越えて様々な人々と関わり合いながら共に課題を解決していくための、多様性と包摂性のある共生社会の実現が一層重要になってきます。そのような中、温かな言葉の交流を通じて多様な価値観に触れ、互いの心をつないでいくことは、私たちにとってますますかけがえのないものになっていきます。

今回の入賞作品も、多くの人に感動を与える優れた作品の数々でした。これらの作品に込められた子供たちの多様な考えや思いに触れることにより、助け合うことや認め合うことの大切さ、そしてかけがえのない命について思いを温めていくのではないのでしょうか。

これからも多くの皆さんに、このコンクールに積極的に挑戦していただきたいと思います。来年度も素晴らしい作品に出会えることを心から楽しみにしています。

作文の部



全国共済農業協同組合連合会岩手県本部長賞・特選 (特別賞・岩手県知事賞)

ばあーさん

向中野小1年（JAいわて中央）

菊池 大杜

評大すきだった「ばあーさん」だったので
すね。大杜さんの素直な問いかけへの「ばあー
さん」のかっこいい返しの言葉が印象的です。
「ばあーさん」との微笑ましいエピソードから、
「ばあーさん」を思う大杜さんの優しさがとて
もよく伝わってきます。

ぼくは、ばあーさんが大すきだ。ばあー
さんは、とてもおもしろくて、かっこいい。

ばあーさんは、ぼうずのぼくよりけがない。
「どうしてけがないの。」

と、きくと、

「おぼうさんに、なりたいのさ。」

と、おうちで一ばんこうきゅうなアイスを食べ
ながらいていた。

ぼくは、している。びょういんのくまみ
たいなおいしゃさんがおしえてくれた。ば
あーさんは、がんだった。

そんなばあーさんは、はやおきだ。まだ
みんながねているじかんにおきる。にわに
でて、ざっそうをぬいて、いもむしをやっ
つける。

「太ようにかちたいのさ。」

かっこいい。太ようとバトルしているばあー
さんはかっこいい。

ばあーさんはだんだんあるけなくなって
車イスになった。

「どうして、車イスにのるの。」

と、きくと、

「大ちゃんをのせて、ドライブするためさ。」

ぼくをひざにのせて、あっちこっちはしってく

れた。びょういんの人は、

「スピードいはんですよー。」

と、おこっていたけど、ばあーさんのうん
てんはじょうずだ。

ばあーさんは、しんだ。大すきなコーラ
とうすかわまんじゅう食べて、ねたらそのま
まうごかなかった。ママが、

「ばあーさんは、いつでもうちにいるよ。」

と、いていた。ぼくは、うれしかった。

「ママ、トイレにいこう。」

と、よるにいうと、

「ばあーさんが、そばにいるから一人でいっ
ておいで。」

という。それは、ちょっとこわい。

特選に選ばれた感想

作品コンクールで特選になれて、とてもとてもうれし
かったです。担任の平山先生に、

「おめでとう！」

といってもらえて、イエーイとおもいました。

でも、すこしさびしいきもちにもなります。ぼくは、ば
あーさんをおもいだすとみだがでそうになるからです。大
すきなばあーさんにあいたいです。

作文をかくのは、本当はきらいです。なにをかいたらいい
のかわからないからです。でも、大すきなことをかいたか
ら、すらすらかけました。

ぼくの大すきなものは、アニメのぬいぐるみとゲームで
す。でも、どっちもなくしてもお店に行けばたくさんありま
す。本当に大すきなものは、ママやおとうさんや、三人の妹
たちです。だって、この五人のかわりはいないからです。

これからも、大すきなかぞくを大せつにしたいです。あり
がとうございました。



全国共済農業協同組合連合会岩手県本部長賞・特選 (特別賞・岩手県教育委員会教育長賞)

将来のために「知る」

岩大附属中3年（JAいわて中央）

佐藤 凜 歩

「『持続可能性』とは、あるいは『持続可能な社会』とはなんですか。』

総合的な学習の時間の中で講師の方からこのような問いがあった。最近よく耳にする「持続可能性」、「持続可能な社会」という言葉。「地球温暖化が防止される社会?」「貧困がなくなる?」頭の中でいくつかの言葉と共にハテナマークが浮かびあがってきた。問いに対して講師の方はこう答えてくださった。「自分たちが将来にわたって継続していきたいことを考え、それを守り、作り出し、将来に繋げていくこと。それが持続可能性だと考えます。」

自分が予想していた答えとは全く違う答えが返ってきた。頭の中で想像していた地球温暖化や貧困などの言葉が出てこなかったことにまず驚いた。一番驚いたことは「作り出す」という言葉がでてきたことだ。今まで、「持続可能な社会」の話の中では「作り出す」という言葉を聞いたことがなかった。講師の方のこの答えは今までの自分とは違った視点であり、得ることが多くあった。それと同時に講師の方に気付かされたことがあったように感じる。それは、自分は「持続可能性」や、「持続可能な社会」について知ったつもりになっていたということ。同じ視点で考えたとしても違う視点で考えたとしても知らないことがたくさんあるということ。

その講演会の数日後に公民の授業があった。その授業では「持続可能性」について学んだ。「持続可能性とは、現在の世代の幸福と将来の世代の幸福とを両立させることを意味します」

教科書にはこう書いてあった。講演会の時とはまた違った「持続可能性」についての新たな視点を得た。それは「幸福」だ。私はその「幸福」の視点で「持続可能性」について考えてみた。現在の世代の幸福とはなんだろうか。将来の世代が求めている幸福は現在の世代と同じものなのだろうか。それとも現在の世代とはまた違うことが幸福として求められてくるのだろうか。そのようなことを考えてみた。しかし、想像がつきにくく、将来の世代のことを考えるのは難しく感じた。ましてや、現在の世代の幸福について考えるのも少し難しく感じた。それは一人ひとりの「幸福」の感じ方が違うと考えるからである。自分自身が感じる「幸福」を将来の世代にも繋げていくこと。それが「持続可能性」への一つの手段であると考えた。このように公民の授業をきっかけとして「持続可能性」について深く考える出来事があった。

英語の授業の中でのSDGsについての討論、家庭科の教

評「『持続可能な社会とは何か』という問いに対して、様々な学習を通じて多様な視点から考え、自分なりの答えを広げたり深めたりしていく様子が伝わってきます。「知る」ことの意義と重要性に気付いた凜歩さんの強い決意が伝わってきます。」

科書の目次を見ると全ての単元の最後には「持続可能な社会をつくる」という題。このように私たちの学校生活には、「持続可能な社会」という言葉があふれている。世界全体として「持続可能性」についての必要性が高まってきた。だからこそ、「持続可能性」という言葉を日常であまり聞かなかった小学生の時に比べて、最近ではその言葉を授業で触れる機会が圧倒的に多くなった。言い方を換えれば、必要になってきたからこそ、授業で取り扱うなど、将来の世代を担っていく私たち中学生に知る機会を与えてくれているのではないかと。それに答えるように私たちは「持続可能な社会」について更に知ろうという意志をもって授業に取り組んでいくことが大切だと思う。

「持続可能な社会」について知り、自分事として捉える。そして自分に何ができるかを考えて実行していく。それを一人ひとりが意識して行動していくことで大きな力となり、「持続可能な社会」に繋がっていくのではないかと考える。何も知らないままでは行動を考えることも取り組むこともできない。アクションを起こすための前段階として「知る」ということが大切だと考える。だから私は、「持続可能な社会」に向けての取り組みとして「持続可能な社会」について「知る」ことが一番大切だと思う。

今日も私は「持続可能な社会」について新たな情報を得る。人類が現在に至るまでに創りあげてきた「持続可能な社会」の中で、新たに生まれてきた課題や失われつつある部分を少しずつ修正したり、新しいことを作り出したりしながら、将来の世代の「持続可能な社会」のために。それが中学生の私にできること。そして、使命。

特選に選ばれた感想

「持続可能な社会に向けて取り組みたいこと」。私は自分の考えをまとめたり人に伝えたりすることに対して苦手意識がありますが、この作文のテーマなら自分の考えをしっかりと書くことができると思い、応募しました。身近な問題、よく耳にする言葉だからこそ、このテーマに対して自分の考えがたくさん浮かびあがってきました。自分の考えをシンキングツールいっぱい書き、自分が最も伝えたいことは何かを考えてみました。そしていきついた主張は持続可能な社会について「知る」ということでした。

自分の考えを学校外の方に発信するという機会を与えていただきとても嬉しいです。さらに、「持続可能な社会」というテーマは性別、年齢関係なく誰しにも関係することなのでそのようなテーマについて自分の考えを発信することができて良かったです。この作文を書いたこと、賞をいただいた経験を活かしていきます。ありがとうございました。



だいすきなころ

木細工小1年（JA江刺）

工藤 ひまり

評「ころ」のことがとっても大好きなのですね。ひまりさんと「ころ」との何気ない日常のエピソードから、ひまりさんの「ころ」への愛情がとてもよく伝わってきます。これからも大好きな「ころ」といっぱい遊んでくださいね。

「にゃあ、にゃあ。」
わたしは、ねこのなきごえをきいただけでもおちつきます。

十ぴきのねこをかつているけれど、そのなかでも「ころ」がいちばんだいすきです。

ころはかわいいです。もふもふで、きもちいいです。かおもからだも、はだいろとしろです。となりのしげひでさんのねことけんかをすると、いつもまけます。だから、くびのところがいつもけがしています。すきなところは、みみとしっぽとかおと、にゃあにゃあとなくなきごえです。ころとねたり、そとにでたり、いえのなかであそんだりします。ほかには、ころとおさんぽもします。ごみすてばのところまで、ひまりとおさんぽします。

ねこのねているすがたは、おなかをだしてねていたり、まるくなってねていたり、よこになってねていたりします。まえあしはまげてうしろ

あしはのばしてねます。わたしは、おなかをだしてねるすがたがすきです。げえじにはいってねているときもかわいいです。

ころに
「かわいいね。」

というと、
「にゃあ。」

となきます。わたしのいうことばがわかってへんじをしているのかなあとおもいます。

おべんきょうしていると、つくえにのっかってきます。まえあしで
「ここにかくんだよ。」

とおしえてくれるように、とんとんとします。でも、ほんとうは、おしえているんじゃないくて、ひまりとあそびたいのかもしれないです。だから、べんきょうがおわると、ころとあそびます。

これからも、だいすきなねこといっしょにいっぱいあそびたいな。



おねえちゃんからのバトンタッチ

桜城小2年（JAいわて中央）

山田 遥大

評 三番目のおねえちゃんを助けるすてきな弟さんです。二番目のおねえちゃんからわたされたバトンを引き継いだ思いや行動から、家族を思う遥大さんの優しさが伝わってきます。手をぎゅっとにぎってあげた遥大さんはまさしく家族のヒーローです。

四人きょうだいでってすごいね。ぼくはみんなに言われます。おねえちゃんが三人います。まい日けんかするけど、まい日おかあさんにやめなさいって言われるけど、ぼくはかぞくが大すきです。クラスでいけんはっぴょうをするのがにが手で、出きないと言ったら「わたしもにが手。はずかしいよね。」と言ってくれたりべんきょうもおしえてもらえます。

ぼくはかぞくの事を手つだうことが大すきです。おかあさんの手つだいもすきだけど、三ばん目のおねえちゃんの手つだいをすることが一ばんすきです。きょ年まで、二ばん目のおねえちゃんが六年生にいました。おねえちゃんは六学年ちょうどだったから、一年生のお手つだいをたくさんしてくれました。ぼくも、三ばん目のおねえちゃんのえなをたくさんたすけました。えなには、はったつしょうがいがあって二年生から、しえんきゅうになりました。いやなことがあっても、なにがいやなのか言ってくれないからこまってしまいます。そういうとき、お

ねえちゃんがすぐに、たすけてくれました。

四月、おねえちゃんが中学校に行く日「はる、たのんだよ。バトンタッチ。」と言われました。ぼくは、おねえちゃんからまかされた気持ちでいっぱいになりました。

ある日、本をかりに行ったら、えながろう下ですわってないていました。いよいよぼくのでばんなのに、なにもできなくて、えなの手をぎゅっとにぎってずっといました。

「もう大じょうぶ。ありがとう」とえなが言ったので、ぼくも、もどりました。

いえにかえっておかあさんにはなしたら

「はる、ありがとう。スーパーヒーローだ！」

「でも、あびたいときはあそんでね。」と言われました。ぼくはかぞくのヒーローです。ぼくはかぞくのことが大すきだからです。



ぼくががんばりつづけること

黒沢尻西小3年（JAいわて花巻）

足立琥珀

評 治療を続けている琥珀さんの前向きにがんばり続ける強い思いがよく伝わってきます。「まわりの人たちから力をもらっている」と感じている琥珀さんの心が宝石のように輝いて見えます。優しさと決意にあふれる琥珀さんの言葉から逆に力をもらったような気がします。

「あれ？なんで、目が赤いの？」
ぼくの間を見る友だちは、みんな、ぼくに
しつ問する。

「ぼくの間には、母はんしゅようと言っ
て、ほくろがあるんだ。春になると、草や
花の花ふんで目がかゆくなってしまふか
ら、このほくろが赤くなって、ふくらんで
しまふのだよ。けれど、何もこわいもの
ではないから、だいじょうぶだよ。」

と、ぼくは、かくさないでしっかりとみ
んなにつたえる。はずかしいことではな
いから。

ぼくが、今、がんばっていることは、目
のちりょう。ぼくは、ぜったいにがんばら
なければならない。それは、ぼくがいつも
まわりにいる人たちから、たくさん力を
もらっているから。たくさんの人と出会う
ことができたから、今までずっとげんいん
がわからなかった、このびょう気のちりょ
うにあうことができた。今までもぼくには、
がんばればがんばった分だけ、できるよう
になったり、なおすことができたりしたこ
とが、たくさんある。すぐには、できなく
てもいい。大人になってから、なおるのか
もしれないけれど、ぼくは、ぼくの赤い目
をなおしたい。

今は、目ぐすりを使って、ちりょうをし
ている。一か月に一ど、ママやパパがびょ
ういんまで一時間かけてつれていってく
れて、弟は、ようち園のあずかりほいくで、

るす番をしてきている。ママに、
「こはくの間は、みんなにまもられている
んだよ。みんなで、きょう力してなおして
いくんだよ。」

と言われた。

この前、びょういんに行ったら、目の赤
みとはれがひいてきたから、手じゅつを考
えようとママと先生が話をしていた。ぼく
は、大きな声をだしておどろいてしまった。
手じゅつってどんなことをするのか、入い
んって一人でおとまりをするのか、いろい
ろ考えてこわくなってしまいママに聞いた。
ママは、

「前まで、ぼくの間をすぐになおしてあげ
たいと思っていたけれど、今は、よい先生
とくすりに出会えたから手じゅつではなく
て、少しずつ目がなおってくれたらいいな
と思っているよ。」

と、言った。ぼくは、少し安心した。

ぼくは、いつもママに自分の言った言葉
にせきにんを持ちなさいと言われていた。
これから、どんな風にぼくの間がなおっ
ていくのかは、分からないけれど、目が赤く
ても、かゆくても、できることはたくさん
ある。だから、自分でやりたいと思ってい
ることにたくさんちょうせんして、目のち
りょうも同じようにがんばっていきたい。
ぜったいに、なおすんだ。これが、今、ぼ
くのもくひょうにしていること。そして、
今も、これからもがんばりつづけること。



美しく咲くこと

飯岡小4年（JAいわて中央）

相浦美咲

私が家の中で好きな場所の一つが庭です。庭には色々な花や木があります。小さいころから庭仕事の手伝いをしていて、木は大きく花はたくさん咲くようになりました。虫がいるし暑さ寒さで作業が大変な時もありますが、一生けん命お世話しています。

まず、冬をむかえる前にお手入れします。冬は植物達が雪の下でそっと力をたくわえているそうです。かいた雪が山になるので、こんなに重たい所で本当にだいじょうぶかな？と時々心配になります。そしてむかえた春、土からヒョコッと緑色のめが顔を出します。最初に咲くのは、クリスマスローズとクロッカスです。それから次々と花が咲いて、今年は桜も咲きました。桜は三年前に植えたばかりで屋根から落ちた雪で折れてしまったり、わが家によく来るセキレイにつぼみを食べられて去年はほとんど咲かなかったの、ホッとしたのと生きる力の強さを感じました。夏は野菜の出番です。ゴーヤ、キュウリ、トマト、ナス、ピーマンが定番で、カレーや天ぷらになると家族皆がよろこんですぐなくなります。夕飯のじゅんびをする母に、「とってきてー。」

とたのまれるので、葉を見ると何の野菜かわかってくわしくなりました。じつは苦手な野菜ばかりですが、わが家産は甘いと感じます。秋は、母の大好きなバラが咲いて庭がちょっとごうかになります。私の名前と同じバラも

評 家族の庭仕事のお手伝いを通して植物の美しさを感じとっている美咲さんの言葉から、前向きで力強い心の輝きが見えてきます。小さな芽が伸びて美しい花を咲かせ、実を結んで命をつないでいく草木の姿と自分とを重ねる美しい感性が見事に表現されています。

あり、去年は自由研究のために、あいを植えて豊作でした。

今年楽しかったのは

「お庭手伝いたい！」

と言ったら母が五色のパンジー・むらさき色のアリッサム・ストックを用意してくれて植えたことです。小さな花がかわいくてアリッサムは特にお気に入りなので、うれしくなりました。母が、

「色とりどり花がならんで『美咲』の名前とおなじ。笑っているみたいだね。」

と言ってくれ、明日も明後日も庭の花のように元気にすごしたいなと思いました。

もう二年以上コロナで出かけることや、遊ぶことがなかなかできない日が続いています。楽しいことがへってしまった気がして、残ねんです。でも、花と緑いっぱい庭を見ると明るい気持ちになれます。ざっ草ぬきにつかれてヘトヘトになったり、一生けん命やっていたつもりがかれて上手いかわいことがあっても、母との話やいっしょの時間がふえて楽しいのでがんばれます。小さなめがのびて美しい花を咲かせたり実を結んで、命をつないでいくすがたは、生きていくための力をくれる気がします。これからもお世話を通して、命の力を感じながら、私も名前のおり咲くような笑顔で花のように家族やだれかを幸せにできたら良いなと思います。



ありがとう

木細工小5年（JA江刺）

菊池由佳莉

「ありがとう。」

私は、この言葉が大好きです。何かしてもらった時、自然と声に出して言うことができます。また、言ってもらうと、うれしくて心が温かくなります。

私達は、今年で学校が閉校してしまうので、お世話になっている木細工地域の人に感謝の気持ちを伝えたいと思いました。魚つかみや田んぼの体験、ミズキ団子作りなど、いつも準備をしてもらってばかりいるので、今度は私達が自分たちで準備し、地域の人達を招待しようと思いました。でも初めは、何をしたらいいか悩みました。喜んでもらうためにお店を開こうと思ったけれど、自分達だけではどうしたらいいか分かりませんでした。そんなとき、TBSの人やギャル達が協力してくれることになり、自分達がやりたいと考えたお祭りをするようになりました。

「ありがとう。」の気持ちを伝えるために、私はジュエリーショップを開きました。毎日登下校の見守りをしてくれる春男さんやユリ子さんには、特別なブレスレットを作りました。それ以外にも、みんなに渡せるように四十個くらいのブレスレットを心をこめて作りました。ギャルのちいちゃんやもちゃんが作り方を教えてくれたり、手伝ってくれたりしたので、お祭り当日までに四十個以上のプレゼントを準備することができました。手伝ってくれた二人に、

「ありがとうございます。」と照れながらお礼を言ったら、

「地域のみなさん喜んでくれるといいね。」

「いっぱい渡せるといいね。」

と笑顔で答えてくれたので、このブレスレットで地域の人達が笑顔になってくれたらいいなと思いました。

その他にも、たくさんの方がお店に来てくれるように、かん板にカラフルなリボンをつけました。リボンがうまく結べなかったけれど、手伝ってもらったので、

「手伝ってくれて、ありがとうございます。」

とTBSの人にお礼を言いました。

「どういたしまして。」

「たくさんお客さんが来てくれるといいね。」

とはげましてもらって、早く屋台を開きたくくなりました。

お祭り当日は、お店に行列ができるくらい大はん盛でした。好きなブレスレットを選んでいる時の地域の人顔は、みんなニコニコしていて、

「上手に作ったね。」

と喜んでくれました。袋に入れた後、

評 今年度で閉校となる木細工小学校。多くの人に「ありがとう。」を伝えようとギャル達とお祭りを企画する由佳莉さんのがんばりと感謝の気持ちがとてもよく伝わってきます。「ありがとう」という言葉のもつ価値を実感していく様子が見事に表現されています。

「ありがとうございました。」

と大きな声で言いながら渡しました。すると、

「ありがとう。」

と返事が返ってきて、本当にうれしかったです。こんなにたくさんの人から

「ありがとう。」

と言われたのは初めてだったので、感謝の気持ちが伝わったなあと思って、幸せな気分になりました。

お祭りでは、四年生の結心ちゃんが、コーヒー屋さんを開きました。ビールケースにぞう花できれいにかざりつけをしてイスを作ったり、ドラム缶にペンキをぬってカウンターにしました。ギャル達のアイディアはすごいと思いました。暑い日だったので、みんな冷たいコーヒーを喜んで飲んでいました。その他にも、カップケーキ屋さん、クッキー屋さん、写真屋さんがあって、全校五人のお店は、

「ありがとう。」

でいっぱいになっていました。地域の人に感謝の気持ちを伝えるめあては、達成できたと思いました。

このお祭りは、TBSの人やギャル達にたくさん手伝ってもらったからできたので、感謝の気持ちをこめて、色紙のサプライズプレゼントをしました。六人のギャル達は、

「え、うれしい。本当にありがとう。」

「木細工のことが好きになったよ。」

「ありがとう。忘れないよ。」

と泣きそうになりながら喜んでくれました。ギャルと私は、おたがいに、

「ありがとう。」

を言い合って、心がつながっているなあと思いました。ギャル達とのお別れはさびしかったけれど、木細工地域のみななど、最高の思い出ができたので、うれしかったです。

私は、「ありがとう。」と言われると、やってよかった、もつとがんばろうという気持ちになります。きっと、「ありがとう。」と言われて嫌な気分になる人はいないと思います。だから、おたがいに気持ちが良くなる「ありがとう。」という言葉が大好きです。

これからも、感謝の気持ちが伝わるように優しく心をこめて

「ありがとう。」

の言葉を使い続けていきたいです。



あきらめない気持ち

北上・南小6年（JAいわて花巻）

新美里桜

思いやり。笑顔。感謝。私には好きな言葉がいくつかあります。その中でも、いつも私の気持ちをふり立たせてくれる大事な言葉があります。

私は三年生の時に、二年生の時の担任の佐藤先生に勧められて、毛筆と硬筆を習い始めました。字を書くことは好きだったけれど、今まで習い事をしたことがなかったので、長く続けられるか不安な気持ちで始めたのを、今でもはっきりと覚えています。土曜日や日曜日に、父や母に送迎をしてもらい、週一回の教室が始まりました。家からは距離の遠い二子地区の教室だったので、初めて会う子ばかりで、自分がその場の環境に慣れるのか、とても心配でした。

「途中でやめることにならないのならば、頑張ってみたら。」

との両親の声に背中を押され、何回か通ったのちに、正式に教室に通うことになりました。

「初志貫徹」

この言葉こそが、私がいちばん大切に、そして大事にしている言葉です。教室の雰囲気にはあつというまに慣れ、気づけば私の周りにはたくさんの友達がいきました。納得のいくまで練習をした作品で賞をいただけたり、級や段が上がり難しい字を書くようになり、だんだんと不安という思いから楽しいという気持ちに変わっていきました。自分でやりぬくと決めたのだから、投げ出さずに挑戦していくという気持ちはこの時から始まったのだと思っています。

「今じゃなくて、後でやろう」このような考えは日々の生活の中でも出てくるありふれた光景です。今でも習字教室などを続けられているのは、私の心の中にある、「最初に心に決めたことを、最後まで変わらず持ち続けること」という初志貫徹の気持ちからくるものだと思います。

何年かのちに、書き初めをする機会がありました。その時にふっと頭にうかんだ言葉が、「初志」でした。この二字を書くときに、筆を持つ手に力が入り、と

評習字や吹奏楽の練習を頑張る姿から、里桜さんの「初志貫徹」の精神が力強く描かれています。将来の目標である薬剤師への夢に向かって、「初志貫徹」の精神で勉強と部活を両立して取り組んでいこうとする決意が見事に表現されています。

でも誇らしい気持ちになりました。

六年生になってから、新しくチャレンジしたことがあります。それは、吹奏楽課外です。高校生の姉が吹奏楽部に入っていて、学園祭や演奏会でパーカッションやバリトンサクソなどを演奏している姿を見てきていたので、自分もやってみたいと思ったからです。放課後や夏休みに入ってから練習を重ねるうちに、少しずつ吹けるようになってきたところです。今は、冬に開催されるアンサンブルコンテストに向けて、一生懸命練習をしています。私はクラリネットを吹いているのですが、音階が上がるにつれて指の位置が複雑になったり、肺活量が必要になったりと簡単に吹けるものではありません。ですが、あきらめずに練習を続けていけば、きっといい演奏が出来ると思うので、ひき続き頑張りたいと思います。

昨年の作文課外で、いのちについて考えた時に書いたコロナという感染症は、今もなお変異したウイルスが形を変えて、猛威を振るい、現在でもコロナ禍が続いています。

「薬や医薬により、すべての病気が治るわけではないけれど、少しでも病気の進行を食い止めるならば」と志した、薬剤師になりたいという夢も日に日に強くなりました。

父は、よく

「あきらめたらそれで終わりだから」

と私に言います。それに、

「挑戦した結果だめだったのなら、仕方がないけれど、納得のいくまでやりなさい。」

と言ってくれる事にも感謝しています。

習字教室は中学校に行っても、時間をつくり継続して習い続けようと思っています。中学生になったら、部活と勉強の両立を頑張りたいです。将来の目標である薬剤師になるという夢をかなえるためにも、初志貫徹の精神で取り組んでいきたいと思っています。私の指針になっているこの言葉を胸に刻み、新学期を迎えたいです。



平等な世界、それは思いやり

一関一高附属中1年（JAいわて平泉）

鈴木沙季

「世界の人々が幸せでいられる世の中」これが持続可能な社会への第一歩だと私は感じた。

今、世界では深刻な問題が起きている。その内の一つに「SDGs」というものがある。これは、未来の世代も美しい地球で平和に豊かに、ずっと生活し続けるための目標である。

私は中学生になってすぐ、雨音が音楽のように聞こえる頃、持続可能な社会について考えた。

「制服について考える週間を実施します。」

全校が集まった賑やかな雰囲気の中で体育館いっぱいその声が響きわたった。私が通う中学校の全校集会での出来事だった。

「制服について考えるとどういう意味かな。」

「何をやるんだろう。」

突然発表された時、頭の中では疑問が次々とでていた。それもそのはず、当時の私は「中学校イコール制服」のイメージが強かったからだ。その後、この週間について先生が詳しく説明して下さった。期間中「私服、制服、指定ジャージ」から服装を選んで登校してよいというものだ。テレビでたまに見る「制服の自由化。」身近で起こると思ってもしなかった事が私の考えを大きく変えた。

その日、帰宅した私は早速、母に全校集会での事を話した。母はとても興味を持って聞いてくれた。

「これ、持続可能な社会と関係してるね。」

母の口から耳にした事のある言葉が聞こえた。母が次を話すより早く、私は後を続けた。

「え、そうなの。」

あんなに早く言葉が出たのは、衝撃が大きかったからだと思う。持続可能な社会は環境問題についてのイメージがかなり強かったのだ。なかなか頭からはなれず、ジェンダー平等について調べてみた。「ジェンダー平等を実現しよう」これはSDGsの項目の一つである。未来の世代も美しい地球で平和に豊かに生活し続けるための目標、それがSDGs。世界で問題としてかかげられているのを知った私は近いうちに解決しなければならぬ課題だということ把握した。

しかし、まだ解決には至らないというのが現状であ

評 校内の制服の自由化の取り組みを通して、ジェンダー平等の実現について考えを深めていく様子が見事に綴られています。関わる人すべての人に思いやりを持つことの大切さに気付き、それが「幸せの原石」であることと結んでいる沙季さんの力強い決意が表れています。

る。その例として「女性の発言力や機会が不十分であること」が挙げられる。私がそう感じるのは、国会での女性議員の割合だろうか。確かに、女性議員も沢山の発言をしている。でも全体的に見ると、やはり不十分に見えてしまう。また、データにも残っている。二〇二一年の衆議院の女性国会議員比率が九・七パーセントというものだ。これは世界百九十カ国中、百六十八位だという。私は目を丸くした。でも驚いているだけでは終われない。自分でもできることを考えて、取り組む必要があると思った。

では具体的に何をすればよいのか、自分には何ができるのか、必死になって答えを導きだそうとした。心の中での自分だけの会話が止まらない。

「ボランティア活動にでも参加してみるか。」

「でも、私にそんな勇氣はない。」

「これを機にやってみようかな。」

「でも、どうすれば。」

そんな自問自答をくり返していた時、ふとある言葉を思い出した。それは私の大好きなことわざだ。「細き流れも大河となる。」小さな川がたくさん集まれば大きな川になるように、小さな努力も大きなものになるという意味だ。いきなり大きなことに取り組まなくてもいい。たった一人の力でも、やがて大きな成果を得る。この言葉を強く胸に言いかけた。すると、まるで難しい問題が分かった時のように明確に答えが出た。「関わってきた人、これから関わる人すべてに思いやりを持つこと」だと。ジェンダー平等とは誰もが幸せ、つまり気持ちが温かくなり、自然と笑顔になれることが大事だと思った。そのために具体的には、物事を相手の立場に立って考えたり、相手の気持ちを大事にしたりして行動したい。そうすることによって、私の力でその場の雰囲気を明るくすることができる。一見「思いやりを持つこと」は、持続可能な社会とはほど遠いような話に見える。しかし、本当に小さなことの積み重ねがきっと平和な世の中につながっていくと考えた。だから私は「思いやりは幸せの原石」を合言葉に、持続可能な社会を実現する一員になってみせる。



世界の人々の当たり前と自分の当たり前

一関一高附属中2年（JAいわて平泉）

岩 淵 唯 愛

評 環境問題に対して正面から向き合うことを通して、現在自分自身が取り組んでいることを踏まえながら、これから何かできることはないかについて具体的に考えを深めています。世の中の「当たり前」について改めて考え直す唯愛さんの真摯な思いが伝わってきます。

私の当たり前は毎日ご飯が食べられて学校で学び友達と遊び家族と家で安心して過ごせる生活だと思っている。しかし自分と同じような当たり前がない人が世界にはたくさんいる。

私は以前学校の授業で難民の子どもたちについて学んだことがある。アフガニスタンでおきている紛争の影響で難民となり学校に行けない、食べるものがない、住む家がない人がたくさんいるという。そのため毎日水を求めて歩き続ける子ども、大人と一緒に働く子どもがいることも知った。自分よりも小さい子どもたちが毎日一生懸命働き、お腹いっぱいご飯が食べられていないという現実を知り私は悲しくなった。そのような飢餓状態にある子供は世界の九人に一人といわれている。

世界にはその他の問題も存在する。ツバルという国では地球温暖化により国土が沈む可能性があると言われている。島の最も高いところでも海拔四・六メートルしかない。このまま温暖化が進むと数十年後には沈むといわれている。今でもヤシの木が倒れる、満潮時には地面から水が湧き出すなどの問題が起こっている。それにより住居や道路の浸水の被害が起きている。しかしツバルの二酸化炭素排出量はとても少なく下位十カ国に入る。直接温暖化に関わっていない国が危険にさらされている。つまり温暖化を進めたのは先進国といえるだろう。もうけばかりを考えて行動していた先進国は二酸化炭素をたくさん排出してきた。日本もその国のうちのひとつである。世界中の人が自分のような当たり前の生活がないのは自分たちの行動に問題がある。自分たちが変わらなければ。そう思った。

以前から私の家ではマイバッグの使用や、ゴミの分別・リサイクル、節電・節水に取り組んでいる。プラスチックゴミをなるべく排出しないよう心がけ、紙や食品トレイなどのゴミはリサイクルするようにしている。気づいたら電気を消すようにもしている。また地域のクリーン活動にも参加するようにしている。自分たちの住んでいる地域に落ちているゴミを分別しながら拾って歩くという活動である。

予想よりも多くゴミが集まり驚くこともあった。

私は今後今までの活動に加えて募金活動への協力、プラスチック製品の使用をなるべく控える、人にこのような現状と自分の活動を伝えることをしていきたい。募金活動は学校やスーパーマーケットなどでも行われているため気軽にできる活動だと思った。募金をすることで少しでも人に食料や文房具の支援ができればいいと思う。またプラスチック製品の使用を控えるということに関してはプラスチック袋の節約だけに限らずストローやスプーン・フォーク、トレイ、ペットボトルなどの製品の使用を控えたいと考えている。プラスチックトレイを使用していない食品をなるべく購入する、無料のプラスチック製のストローやスプーン・フォーク等はもらわないようにする、麦茶はバック式のものを買って家で作り、水筒に入れてペットボトルの使用を控えるなどの行動をとりたい。そしてこのような活動と今の世界の現状を人に発信していきたい。このような活動をすることにより一人での活動が人々に広まり大きな力となると考えた。そうすることで地球の未来は変えられるかもしれない。一人だけで頑張っても今の現状を変えることが難しい。ただ協力者が増えることで改善できるものがある。SNSやポスター、呼びかけなどを通して発信していきたい。まずは身近な人から発信していきたいと思う。

この地球を持続可能なものにしていく上で世界には様々な問題がある。貧困問題や地球温暖化、ジェンダー平等などがある。これらの中には自分たちの身の周りでおきている問題もありすぐ近くで苦しんでいる人がいる。もう他人事ではない。世界のどこかで起きている問題でもない。今でも助けを求めている人がいる。行動に出なければ変えることはできない。人が起こした問題は人が解決できる、しなければいけないと思う。そのために小さなことでもエスディージーズ達成のための活動をしたい。世界の人々に自分と同じような当たり前を過ごしてもらうために。



世界全体が幸せにならないうちは 個人の幸福はあり得ない

一関一高附属中3年（JAいわて平泉）

島山 史子

「世界全体が幸せにならないうちは個人の幸福はあり得ない」

宮沢賢治のこの言葉は、SDGsの基本的な考え方を、最も明快にまとめた言葉だと思う。では、「世界全体」の「世界」とはどこを指すのだろうか。そう問われれば、普段は自分の目の届く範囲や、広くても日本という国くらいまでしか考えられない。少し進めれば「世界と言え、地球上のあらゆる人々」という考えに至ると思う。私自身もそうだった。けれども、私は更にもう一步進め、地球上全ての「生物」でなければならないと考えている。そこには、私達人間が生きていく上でいただいている、食べられる「命」も含んでいる。

私は、牛が好きだ。小学生の頃、アレルギー持ちの私でも飲める牛乳のおいしさに感動し、その牧場を訪れて酪農実習をしたことがきっかけだ。自然放牧された牛は自由に歩き回り、自由に草を食べ、排泄し、寝る。牛の排泄物そのまま肥料になる。その牛達は角を削られたり、鼻輪でつながれたりすることもない。その牧場の牛達の食料となっているのは、人工的に育てられた草や輸入されたトウモロコシなどの合成飼料ではなく、その土地に生える野シバや笹だ。野シバは山を覆い、保水し、ちょっとした台風や大雨なんかではビクともしない豊かな山を作り出す。日本の国土の三分の二が森林だ。自然と人と牛が共存する方法は持続可能な生産方法ではないだろうか。

また宮沢賢治の作品の中に、『フランドン農学校の豚』という物語がある。その世界では、動物が人の言葉を理解し、意思疎通ができていた。あるとき、その世界で動物を殺す前に、その動物に死亡承諾書に判を押してもらわなくては行けないという法律ができた。しかし、その法律は動物にとって、本当に良い法律なのだろうか。その物語の豚は、判を押すことを強要され、死ぬということを理解した。死ぬまでの時間は、拘束され、強制給餌に苦しみ、死への恐怖に苛まれ、全てを諦めて、幸せとはいえない様子だった。

最近、アニマルウェルフェアという考えが欧米を中心に広まってきている。家畜をこころを持つ生物として見て、生まれたときから死ぬまでを幸せでしようという考えだ。生物が幸せに生きる為に必要な五つの自

評 宮沢賢治の言葉をきっかけに、「持続可能な社会」を結び付けながら、大すきな牛をはじめとした動物の命について考えることを通して、「幸せ」とは何か、「命」とは何かについて史子さんなりに考えを深めていく様子が見事に綴られています。

由「一空腹や渇きからの自由、二不快からの自由、三痛みや傷、病気からの自由、四正常な行動を発現する自由、五恐怖や苦悩からの自由」を基本に、動物を辛くさせないために、豚であれば妊娠スケール、ニワトリであればケージ、牛であれば除角や断尾を廃止する動きが強まっている。ストレスから解放された牛の乳は安全で健康で、何よりもおいしく、私達を幸福感で満たしてくれる。

「牛は経済動物で、採算が合わなければ動物の命を奪わなければいけない。最後には殺す生物たちを幸せに導くことなど夢物語に等しい。」と言う人もいると思う。けれども、「どうせ命を奪うのだから。」という思いで育てられ、加工された動物達に、私達はどのくらい「命をいただいている」という意識を持てるだろうか。

そう考えると、普段スーパーなどで見かける「有機農法で育てた大豆」とか「生産者の顔が見える野菜」という食材を見ると、安全性はもちろんだが、大切に育てられたものの「命」をいただいているという意識が高まってくる。もちろん、大切に育てようが雑に育てようが、命をいただいていることには変わりがない。けれども、大事に育てられたのが伝わってこそ、私達には「命をいただいている」意識が高まるだろうし、その感覚を高めていかなければならないのだと思う。

「持続可能な社会」というのは、自分だけが良ければ良いと考えるのではなく、世界全体の幸せを願ってこそ可能になるのだと思う。そして、世界全体の幸せを考える根底には、「すべての生き物には命がある」こと、その命をいただいて、つながっているからこそ自分が生きていることを忘れないでいることがあると思う。「食」に代表されるように、自分が生きるために奪われる命がある。その相手が生きていたことを忘れないことが、持続可能な社会をつくりあげていくと信じて、自分から行動することが大切である。

だから私は、人々はそれぞれの立場から、自分の命の営みは、多くの命の上に成り立っていることを伝え合い、行動することが大切なのだと思う。

「世界全体が幸せにならないうちは個人の幸福はあり得ない」

それを多くの人に伝えられる一人になりたいと思う。

書道を審査して

審査を通して思うこと



岩手書道協会 参与

八木橋 哲 男

連日のようにテレビや新聞で報じられる新型コロナウイルス感染者数に、一喜一憂しながらも常に感染の不安を抱いて毎日を過ごされていることと思います。

そんな状況の中にあって、このコンクールに向けての取り組みも思うように出来なかったのではないかと心配をしておりました。しかし、出品数は平年並みであったことに、心配は取り越し苦勞であったことを感じました。そして、入賞した作品からは、コロナへの感染防止に向けて人との接触を避け、黙々と練習に取り組まれたことを強く感じました。改めて日頃の練習が功を奏して入賞の榮に浴された皆さん「本当におめでとうございます」。

私が中学校に勤務していた25年ほど前、地域の70歳代の民生委員の方とお話をした際、その方から「文化は西からだよ」と言われたことが今も私の頭から離れません。その言葉を裏付けるようにこのコンクールへの出品数も、毎年関西地区の方が圧倒的に高く、多くの人達が切磋琢磨している事が伺われます。地区の方々の文化への関心が高いのか、或いは児童生徒数が多いのかよくわかりませんが、出品数に大きな差があることは確かです。

ところで、このコンクールの書道部門は半紙部門と条幅部門があります。半紙部門の作品は、日頃学校で使う筆で書いてよいのですが、条幅

部門の作品の中に明らかに半紙用の筆で書いたと思われる作品がありました。やはり大きい用紙には大きい筆で書いてほしいものです。

又、今回びっくりしたことは、条幅の用紙（画箋紙）に縦に鉛筆で中心線が書かれていた作品があったことです。条幅作品は課題が一行ですから文字の中心を揃えることが大切ですが、用紙を折って（谷折りではなく山折り）書くとか、線の引かれた下敷きを準備して欲しかったと思います。コンクールの出品作品に鉛筆で中心線を引くようなことはあってはならないことです。線が引かれた半紙用の下敷きと同じく条幅用の下敷きにも線が引かれたものがありますのでそれを準備されては如何でしょうか。

更に、折角の努力が報われない審査対象外の作品が、全体の3%もあったことに私は心を痛めました。これらのことは、指導者の注意で防ぐことが出来ますので、出品する際には一寸心配りをして欲しいものです。

結びになりますが、今年もコンクールへの出品の労をおとり戴いた各学校の先生や指導者の方々に、書に取り組んできた者の一人として衷心より敬意を表します。これからも日本人として日本の文字を正しく、整えて書く習慣を身につけさせるべく頑張ってもらいたいと願うばかりです。

（特別賞・岩手日報社社長賞）
 全国共済農業協同組合連合会岩手県本部長賞・特選



評 安定感のあるどっしりとした線の中に渴筆を出し、筆勢を感じさせる技巧は大変素晴らしいです。

柳谷 歩 希
 鵜飼小4年（JA新しいわて）

特選に選ばれた感想

学校で先生から「特選でしたよ。おめでとうございます！」と言われた時、どのくらいすごい賞なのか分かりませんでした。家に帰ってから母や姉達に「一番良い賞だよ！」とほめられて、びっくりしたし嬉しかったです。

私は毎年いくつかの書道展に取り組んでいます。条幅の作品を書く機会はJA書道コンクールだけなので、大きい筆で大きい紙に書くのがとても楽しいです。

今回の課題では、漢字が大きくなりすぎて紙からはみ出してしまったり、ひらがなを書くスペースがせまくなったり、文字の大きさに苦労しました。一つの文字の中にも太い線と細い線がある事や、四文字の中心線をそろえる事に気を付けて練習しました。最後まであきらめずに書いて良かったです。

いつもしめ切りギリギリまで作品を待ってくれる先生方や、指どうしてくれる母、応援してくれる家族やお友達に、たくさんありがとうと伝えたいです。

全国共済農業協同組合連合会岩手県本部長賞・金賞



洋野・中野小1年(JA新しいわて)
 粒 来 祐 至

評 始筆をしっかり用紙にくい込ませ、ひらがな三文字を元気一杯に書き上げました。名前も立派です。



城北小2年 (JAいわて中央)
長谷部 瑛大

評 〻 ひらがな三文字の字形も正しく、用紙に合った大きい筆で堂々と書き上げました。名前のひらがなもしっかりと書けました。



月が丘小3年 (JAいわて中央)
北村 花

評 〻 基本点画をしっかりと身につけ、大きい筆で漢字とひらがなのバランスもよく書きあげました。



城北小4年 (JAいわて中央)
進藤 結仁

評 〻 四文字の中心がぶれることなく、安定感のある線質で堅実に書き上げる技量は大変素晴らしいです。



遠野北小5年 (JAいわて花巻)
菊池 美結

評 〻 一字一字を引き締まった強い線で書き上げ、全体を上手くまとめました。作品を通して日頃の練習が伺われます。



鶉飼小6年（JA新いわて）
柳谷祐希

評 漢字に比べてひらがなが少し小さめですが、揺るぎのない線質から、日頃の弛まない錬磨を感じます。



遠野中1年（JAいわて花巻）
古川風紗

評 変化のある線質で、筆脈を切らずに書き上げたところはさすがです。中学校一年生で初めて学習する行書体がしっかりと身についています。



滝沢南中2年（JA新いわて）
柳谷咲希

評 自信に満ちたしっかりとした書きぶりは大変見事です。「土」と「の」の間隔が一寸気になります。



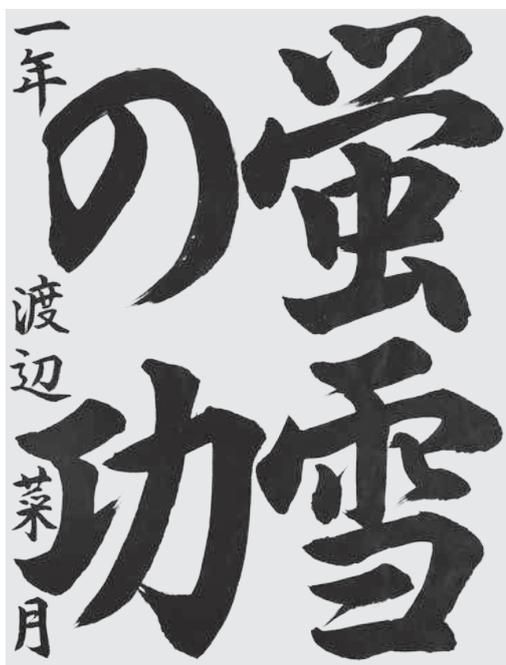
遠野中3年（JAいわて花巻）
菊池真由

評 横画の始筆は一寸気になるも、花が舞う様な流麗な運筆で鮮やかな作品となりました。

書道・半紙の部



全国共済農業協同組合連合会岩手県本部長賞・特選 (特別賞・テレビ岩手社長賞)



評 自信に満ちた滑らかで抑揚のある線質から、遅速緩急の軽快なリズムを感じ取ることが出来ます。

岩大附屬中1年（JAいわて中央）

渡辺 菜月

特選に選ばれた感想

中学生になり、初めてのコンクールで特選を頂きとてもうれしいです。昨年、「中学生になったら、行書に挑戦したい」と書いたので、今年はどうな課題が楽しみにしていました。行書らしさを出すという点では、画のつながりと余白に着目し、柔らかさと力強さを表現するためにたくさん練習しました。なかなかうまく書けない時もありましたが、家族が応援してくれ、自分が納得いく作品を仕上げることができました。習字の先生は、自分の気持ちを大切に書くことと良いということをお話してくれます。行書は楷書よりも、書いている時の自分の気持ちがよく表れると思うので、伸び伸びと書くことを意識しました。また、最初に課題の「螢雪の功」の意味を調べた時、苦勞して勉學に励むことと書いてありました。まさに今回は螢雪の功を積んだ結果だったなと思います。これからさまざまな課題に取り組んでいきたいです。ありがとうございました。



全国共済農業協同組合連合会岩手県本部長賞・金賞



向中野小1年（JAいわて中央）

田澤孝汰郎

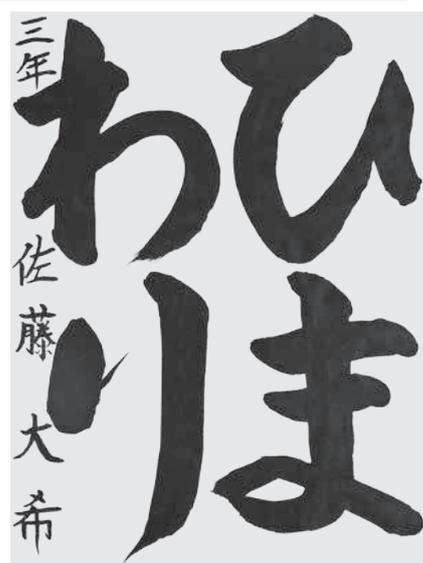
評 ひらがな二文字の上下の譲り合いがうまく、墨量豊かにのびのびと書き上げました。名前も大変上手です。



城北小2年（JAいわて中央）

長谷部瑛大

評 「ほ」、「る」の結びが大変上手にできました。ひらがな三文字を用紙一杯に堂々と書けたことは素晴らしいです。



鬼柳小3年（JAいわて花巻）

佐藤大希

評 「ま」の横画の間隔が一寸狭い感じがしますが、四文字の字形も正しく、バランス良くしっかりと書けたことは素晴らしいです。

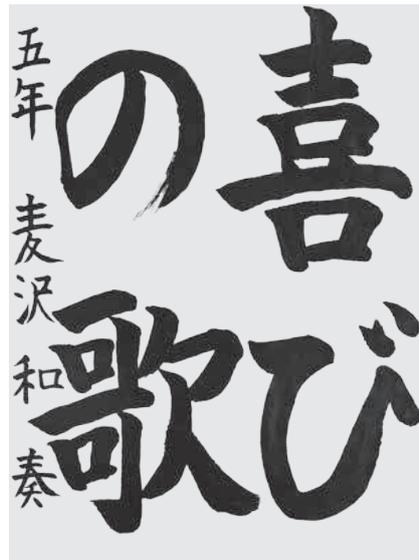


全国共済農業協同組合連合会岩手県本部長賞・金賞



鵜飼小4年 (JA新いわて)
柳谷歩希

評 漢字二文字の譲り合いを工夫して、一点一画を強い線でしっかりと書き上げたことは見事です。名前も立派です。



種市小5年 (JA新いわて)
麦沢和奏

評 漢字とひらがなの譲り合いを工夫してバランスよく書けました。今後横画の練習を積まれると更によくなるでしょう。



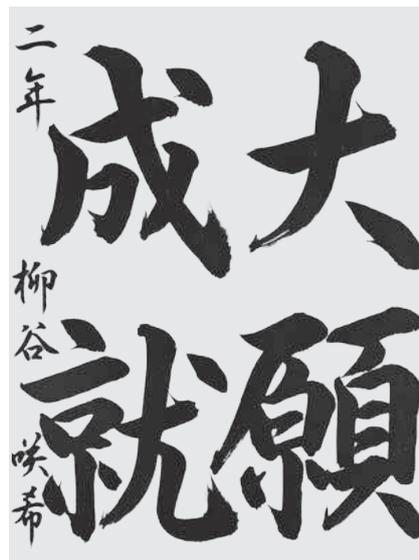
鵜飼小6年 (JA新いわて)
耕野玲奈

評 楷書の基本をしっかりと身につけ、素直な線質で書き上げました。安心して見ることが出来る作品です。



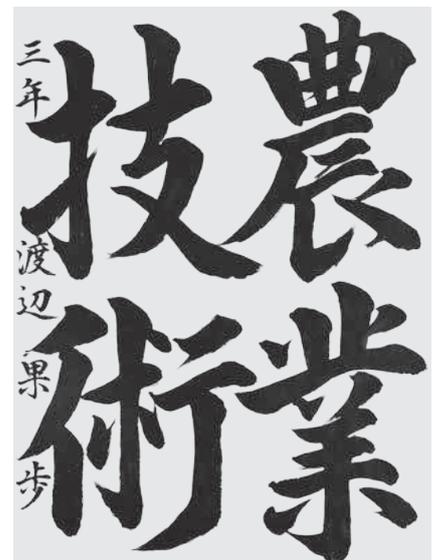
仙北中1年 (JAいわて中央)
田澤佳歩

評 大胆な運筆で、四文字をのびのびとしっかり書くことが出来ました。それだけに名前を書くときの苦勞がわかります。



滝沢南中2年 (JA新いわて)
柳谷咲希

評 左右の文字の譲り合いを工夫して、重量感のある安定した線質で全体をうまく纏めることが出来ました。



岩大附属中3年 (JAいわて中央)
渡辺果歩

評 抑揚のある伸びやかな線質は魅力的です。四文字のバランスよく、行書の特徴を遺憾なく発揮した素晴らしい作品です。

絵画・交通安全ポスター を審査して



元岩手県小学校教育研究会図画工作部会 会長

小松 太

今年度応募されたポスターは、小学生でも文字のデザイン（レタリング）を意識している作品が多かったです。内容的には、手を上げて横断歩道を渡ること、自転車や自動車のながら運転、ながら歩行に対する注意喚起が多かったです。

課題としては、自動車の描き方で、ナンバープレートに数字を入れてしまったりシートベルトの描き間違いや描き忘れがあったりして審査の対象外になってしまった作品があったことが残念でした。信号機の色配置（並び順）の間違いは少なくなっていますので、ナンバープレートやシートベルトについても注意して描き間違いのないようにしてほしいです。

絵画の部、小学生の作品には「好きな動物の絵」が多かったです。身近にいるペットだけでなく動物園で見られるような対象を描いている作品もありました。学校の授業では見て描く絵が少なくなっていますが、好きな物や描きたい対象をじっくりと見て描くことによって、その形や色を再発見することが多かったのではないのでしょうか。この体験はとても貴重なものです。たとえそれが、写真などを見て描く場合であっても、描きたいものが目の前にあることの安心感を持ちながら作品

作りに励んだことでしょうか。ここはこんな形だったのかとかという発見や、この色は何色と何色を混ぜたらいいのかという工夫をしながら描くことでより深く対象を理解することができたのではないのでしょうか。

中学生の絵は風景がテーマです。どのようなイメージを風景の中に込めたのかを感じ取ることが審査のポイントになりました。描きたいと思ったことを、どう伝えようとしたのか、それを、画面の中の色と形から感じ取る作業です。制作する皆さんにとっては、何よりも伝えたいという強い思いがあるかどうかが大変なことで、その思いを伝えるために、自分なりにどんな工夫をして制作していくかが大事なことです。伝えたい思いは、はじめから強くはっきりしたものではないかもしれませんが、描いているうちに思いも明確になってきますし、その思いを表現するための技術も上達していきます。小・中学生の皆さんは、はじめのうちは技術的なことを恐れなくて、楽しく、思いをもって描くことを大切にしながら、これからも作品作りに励んでください。

絵画の部



全国共済農業協同組合連合会岩手県本部長賞・特選 (特別賞・岩手県知事賞)



評 豊かで落ち着いた色調と丁寧な筆づかいでまとめられた作品です。階段を上り見えてくる烏帽子岩を中心に置いて象徴的に描いていますが、建物の屋根や壁なども丁寧に描かれています。

下橋中3年 (JAいわて中央)

中島 優里

特選に選ばれた感想

烏帽子岩は、櫻山神社の脇にある階段を上っていくと徐々に姿を現します。私は小さい頃から友達と盛岡城跡公園で鬼ごっこをしたりして遊んで過ごしました。近くにある烏帽子岩は、当時の私にとって圧倒的な存在でした。大好きな烏帽子岩を、もっとみんなに知ってほしいという願いから描きました。

烏帽子岩の堂々とした姿は、江戸時代から南部藩のお守り岩として祈願されてきた歴史を感じます。先生に教わったばかりの技法を取り入れて岩の表情を描きました。角度によって色合いが変わってくる様子を描くのが難しかったですが、丁寧に心を込めて描きました。

今も新型コロナウイルスによって世の中が困難な状況にあります。この絵には無病息災の願いも込めて描きました。今回賞を頂き、大変驚いたのと同時にとても嬉しかったです。指導して下さった先生方にも感謝していっぱいです。本当にありがとうございました。



全国共済農業協同組合連合会岩手県本部長賞・特選 (特別賞・IBC岩手放送社長賞)

評 運動会での綱引きをがんばっている様子が、綱を引く人物の表情や姿勢、その手の力強さなどで表現されています。綱のあみ目の描き方も上手ですし応援する友だちを入れた全体の構図も安定していていいですね。

見前小4年 (JAいわて中央)

上森 心鈴

特選に選ばれた感想

今年の運動会で、わたしたち四年生はつな引きをしました。つなは、太くて、重くて、引っぱるのが大変でした。わたしは、白組に引きずられないように、しせいをひくくしてふんばりました。白組には負けてしまいましたが、やさしい気持ちよりも、みんなで協力してつな引きをした楽しい気持ちが心に残っています。

わたしは、つなを引っぱる時のふんばった顔やしせいを表せるように、何度もかきました。つなが目立つように、あみ目をかいたり使う色のこさを工夫したりしました。周りには友達の手や、おうえんだんもかきました。

先生から特選をいただいたことを聞いた時には、うれしくて、気持ちが表れるように、細かいところまでかくことをがんばってよかったと思いました。わたしは、絵をかくことが好きなので、これからも気持ちが表れるような絵をかきたいです。





山目小1年（JAいわて平泉）

小野寺隼輝

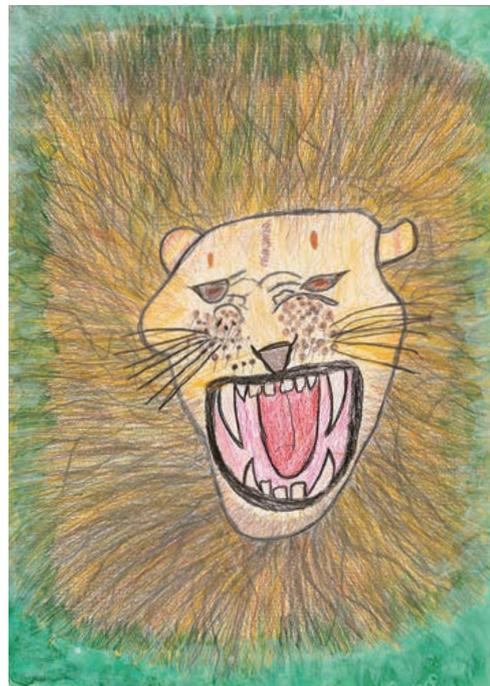
評 2匹の猫が青空に浮かんでいるように描かれています。猫の毛並みをていねいに筆をおいてえがいているところがいいですね。目の黄色と耳の内側のピンク色も画面に変化を与えていて効果的です。



矢沢小2年（JAいわて花巻）

菅原心華

評 やわらかな色調がかわいらしいネコの表現に合っています。少し上目づかいの目の表現をはじめ顔の各部位や手の形もよく見て描いています。毛並みを描く筆づかいも上手です。



一関・南小3年（JAいわて平泉）

千葉真子

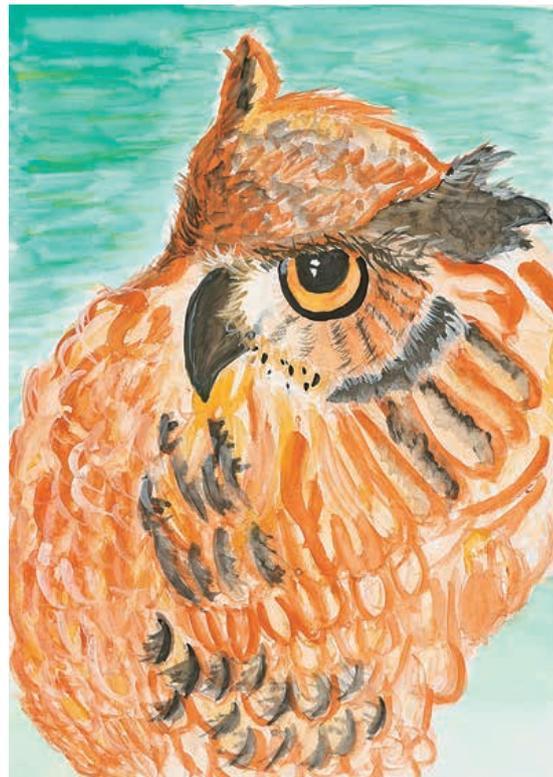
評 画面の中心に迫力のある顔が大きく描かれています。百獣の王ライオンの力強さが下描きの線の勢いからストレートに伝わってきます。



北上・南小4年 (JAいわて花巻)

大友日菜詩

評 画面構成に無駄がなくまとまりのある作品です。七夕飾りと人物の配置も上手です。お友達との楽しい学校行事の様子がほのぼのとした雰囲気とともに伝わってきます。



花輪小5年 (JA新しいわて)

佐々木煌己

評 画面いっぱい大きく、そして、ミミズクの特徴がよくわかるように描かれています。愛らしさとともに鋭さも感じられる目や羽の様子など、よく見て描いていますね。



滝沢第二小6年（JA新しいわて）

貫井美結

評 4匹が仲良く寄り添ってこちらを見ている配置（構図）がいいですね。さわやかな青空の下で緑の草の上に並んでいる猫や犬たちの目の表現にも作者の愛情を感じます。



下橋中2年（JAいわて中央）

佐々木はな

評 左上に続く斜めの道で画面に奥行きや動きを作り、どっしりとした石垣が存在感のある作品に仕上がりました。この構図の良さと石垣の存在感は、実際にこの風景を目の前にして描いたからこそ表現できたものなのでしょう。

下橋中3年（JAいわて中央）

上中優奈

評 奥行きと広がりを感じられる構図の中に、初夏のさわやかさを感じる樹木の葉色、そして、木漏れ日を表現した影の入れ方など、その場の空気感さえも感じられる作品に仕上がっています。



交通安全ポスターの部



全国共済農業協同組合連合会岩手県本部長賞・特選 (特別賞・岩手県警察本部長賞)



評 歩行者が手を上げるだけでなく運転手も手で『どうぞ』と合図を出しているところがいいですね。『ハンドサイン』など文字の配置も効果的です。大切にしたいゆずり合いの心がよく考えられた画面構成によって表現されています。

前沢中3年 (JA岩手ふるさと)

鈴木 瑠月

特選に選ばれた感想

私は、道路横断中の歩行者が犠牲になる交通事故やドライバーの横断歩道における歩行者等の優先の違反が多いことをニュースで見ました。そして、交通事故防止で歩行者自らの安全を守るための行動として「ハンドサイン」があることを知り、このことをテーマにポスターを描くことにしました。

私はポスターで手を挙げてドライバーに横断の意思を伝えているところを描きましたがハンドサインには他にドライバーに顔や体を向ける・目を見るなどもあるので自分に合った意思表示を実践することが大切だと思います。歩行者はドライバーに対して横断の意思を明確に伝えること、ドライバーは歩行者に対して一時停止をしたことを伝えること、お互いに思いやりの行動ができれば、交通事故防止につながるのではないかと思います。

この度は、このような素晴らしい賞をいただくことができるとてもうれしいです。ありがとうございました。



全国共済農業協同組合連合会岩手県本部長賞・金賞



北上・南小1年 (JAいわて花巻)

高橋 碧一

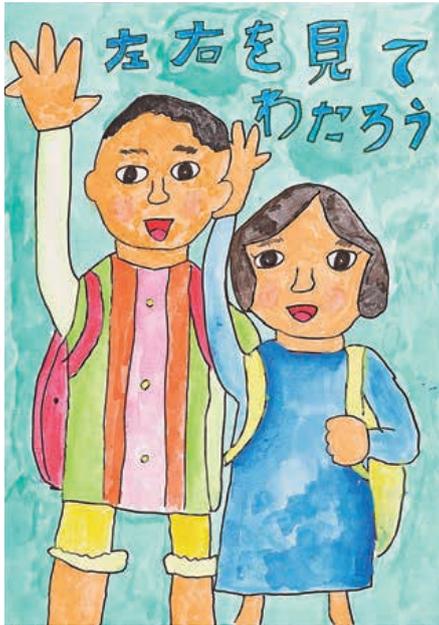
評 手を上げて横断歩道を渡る児童の姿がさわやかに描かれています。後方の虹は大きくあげた手と信号機を結んでいるように見えます。これも作品のさわやかなイメージを強調しているように感じます。



飯岡小2年 (JAいわて中央)

佐々木 結吏

評 ギザギザの線で囲まれた赤から黄への変化で、赤の中のキケンな状況を強調しています。見る人に『とびだし きけん』を効果的に呼びかけています。



広瀬小3年 (JA江刺)

太田 柚奈

評 安定感のある画面構成です。落ち着いた雰囲気のある人物がしっかりと手を上げ、言葉の意味と合っています。安心して見ていられる作品に仕上がりました。



江釣子小4年 (JAいわて花巻)

佐々木 葵彩

評 人物の配置と文字の入れ方がよくまとまっています。家族でしょうか、4人の楽しそうなドライブの様子としっかり絞められたシートベルトが伝えたいことをはっきりとさせています。



江釣子小5年 (JAいわて花巻)

後藤 風花

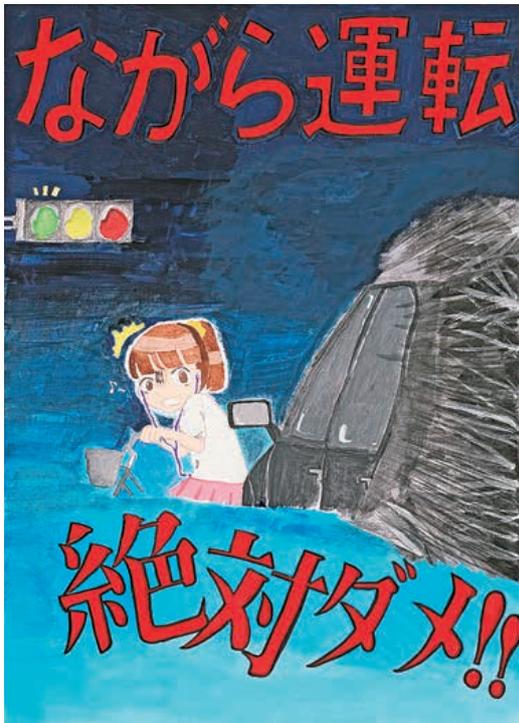
評 車のヘッドライトに照らされて子どもたちの身につけた反射材がピカピカ光っています。安心安全のためにつけた反射材で人物の表情まで明るく感じます。



猿沢小6年 (JAいわて平泉)

小野寺 愛澄

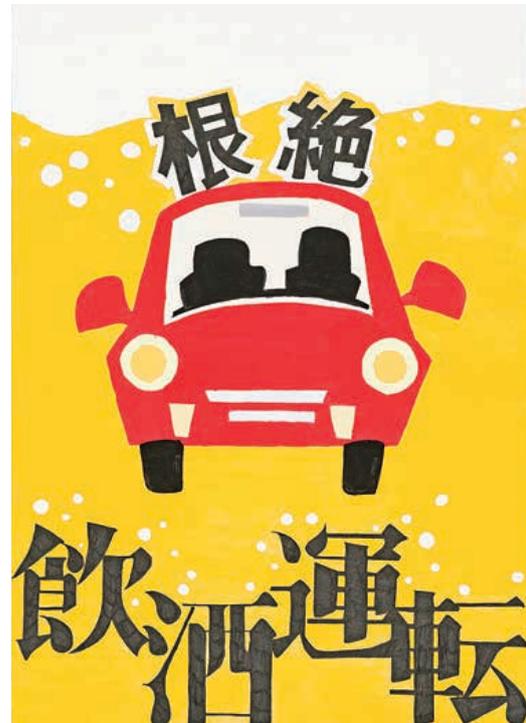
評 しっかりレタリングされた文字で見やすいポスターになっています。二人の人物を描き、右と左を見ているのが言葉の意味と合っていていいですね。



胆沢中1年（JA岩手ふるさと）

村上美咲希

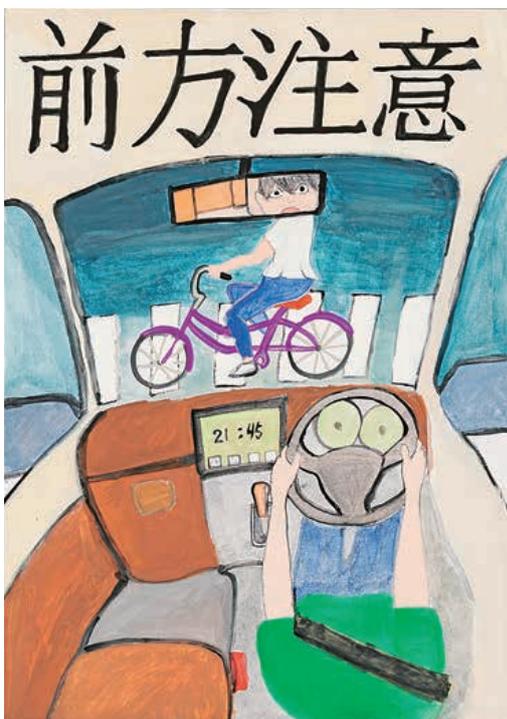
評 イヤホンで音楽等を聴きながら自転車に乗っている人への注意喚起です。これも『ながら運転』ですから『絶対ダメ』という中学生からの訴えです。



胆沢中2年（JA岩手ふるさと）

村上 結

評 配色や画面構成がシンプルで伝えたいことがストレートに伝わります。車内のシルエットに人物の姿は無く、『飲んだら乗らない』に通じる描き方でいいですね。



遠野中3年（JAいわて花巻）

菊池咲花

評 車内を後方上から見る場面設定の工夫が見られます。バックミラーにドライバーの顔の一部が見えているのもいいですね。言葉はシンプルですが、前をしっかりと見て運転することが安全運転の基本ですね。

第66回(令和4年度)

JA共済児童生徒作品コンクール入賞者名簿

◆作文の部

[特選]

菊池大杜 向中野小1年 (JAいわて中央)

佐藤凜歩 岩大附属3年 (JAいわて中央)

[小学校]

学年	賞	氏名	学校名	JA名
1年	金賞	工藤ひまり	木細工	江刺
	銀賞	坂本芽依	桜城	いわて中央
	銅賞	高橋玄	花泉	いわて平泉
	佳作	柴山陽颯	花泉	いわて平泉
	佳作	安海杏佳	土淵	いわて中央
2年	金賞	菅原倅朗	梁川	江刺
	銀賞	山田遥大	桜城	いわて中央
	銅賞	太田瑚愛	飯岡	いわて中央
	佳作	小川航平	一戸	新しいわて
	佳作	中村唯人	一関	いわて平泉
3年	金賞	佐藤美結	緑が丘	いわて中央
	銀賞	渡邊真奈	矢沢	いわて花巻
	銅賞	足立琥珀	黒沢尻西	いわて花巻
	佳作	佐藤大希	鬼柳	いわて花巻
	佳作	山田永菜	桜城	いわて中央
4年	金賞	小山芽生	一関	いわて平泉
	銀賞	菊池咲心	木細工	江刺
	銅賞	菊池梨花	木細工	江刺
	佳作	相浦美咲	飯岡	いわて中央
	佳作	杉澤洋平	飯豊	いわて花巻
5年	金賞	平沢慶佳	一関	いわて平泉
	銀賞	近藤絢基	江釣子	いわて花巻
	銅賞	佐々木葵彩	江釣子	いわて花巻
	佳作	高橋優愛	江釣子	いわて花巻
	佳作	菊池由佳莉	木細工	江刺
6年	金賞	吉田悠珠	金沢	いわて平泉
	銀賞			
	銅賞			
	佳作			
	佳作			
6年	金賞	新美里桜	北上・南	いわて花巻
	銀賞			
	銅賞	米内夢莉	山目	いわて平泉
	佳作	須田希菜	山目	いわて平泉
	佳作	蜂谷菜々子	山目	いわて平泉
佳作	前田大河	山目	いわて平泉	

[中学校]

学年	賞	氏名	学校名	JA名
1年	金賞	鈴木沙季	一関一高附属	いわて平泉
	銀賞	千條日菜子	一関一高附属	いわて平泉
	銅賞	山田結心	岩大附属	いわて中央
	佳作	高橋瑚陽	下小路	いわて中央
	佳作	菅原朱里	一関一高附属	いわて平泉
2年	金賞	千田舞	石鳥谷	いわて花巻
	銀賞	岩渕唯愛	一関一高附属	いわて平泉
	銅賞	小野心響	黒石野	いわて中央
	佳作	竹内海悠	飯岡	いわて中央
	佳作	橋場音音	飯岡	いわて中央
3年	金賞	佐藤本基	矢沢	いわて花巻
	銀賞	高橋さくら	矢沢	いわて花巻
	銅賞	岩山史子	一関一高附属	いわて平泉
	佳作	芥藤菜々	岩大附属	いわて中央
	佳作	平沢水妃	一関一高附属	いわて平泉
3年	金賞	千葉美晴	黒石野	いわて中央
	銀賞	佐郷谷苺	宮古西	新しいわて
	銅賞	千葉美結	岩大附属	いわて中央
	佳作			
	佳作			

◆書道条幅の部

[特選]

柳谷歩希 鶴飼小4年 (JA新しいわて)

[小学校]

学年	賞	氏名	学校名	JA名
1年	金賞	粒來祐至	洋野・中野	新しいわて
	銀賞	嘉糠杏美	遠野北	いわて花巻
	銅賞	藤原柑菜	石切所	新しいわて
	佳作	阿部紗雪	種市	新しいわて
	佳作	瀬川遥馬	城北	いわて中央
2年	金賞	松本陽葵	黒沢尻北	いわて花巻
	銀賞	長谷部瑛大	城北	いわて中央
	銅賞	福士岳陽	沼宮内	新しいわて
	佳作	佐々木桃奈	種市南	新しいわて
	佳作	伊藤遥真	緑が丘	いわて中央
3年	金賞	平野詩織	吉里吉里	いわて花巻
	銀賞	北村花	月が丘	いわて中央
	銅賞	北田朔太郎	日詰	いわて中央
	佳作	宮野夏帆	青山	いわて中央
	佳作	佐藤大希	鬼柳	いわて花巻
4年	金賞	岩崎准平	遠野北	いわて花巻
	銀賞	立花希仁	大新	いわて中央
	銅賞	進藤結	城北	いわて中央
	佳作	牧田茜音	遠野北	いわて花巻
	佳作	田名部美玖	城北	いわて中央
5年	金賞	村澤志緒	篠木	新しいわて
	銀賞	柏谷綾香	月が丘	いわて中央
	銅賞	川向祐生	沼宮内	新しいわて
	佳作	菊池美結	遠野北	いわて花巻
	佳作	嘉糠伶美	遠野北	いわて花巻
6年	金賞	橋本紫呉	遠野野	いわて花巻
	銀賞	渡辺結衣	遠野北	いわて花巻
	銅賞	村上絢	大槌学園	いわて花巻
	佳作	横澤結	沼宮内	新しいわて
	佳作	柳谷祐希	鶴飼	新しいわて
6年	金賞	田中悠菜	一方井	新しいわて
	銀賞	耕野玲奈	鶴飼	新しいわて
	銅賞	菊池芽唯	遠野	いわて花巻
	佳作	中蔦花	奥中山	新しいわて
	佳作	浜川那々子	遠野	いわて花巻

[中学校]

学年	賞	氏名	学校名	JA名
1年	金賞	古川風紗	遠野	いわて花巻
	銀賞	葛巻玲	下小路	いわて中央
	銅賞	五日市一燈	金田一	新しいわて
	佳作	高橋蒼	遠野	いわて花巻
	佳作	畠山莉央	北陵	いわて中央
2年	金賞	檜山みのり	滝沢	新しいわて
	銀賞	柳谷咲希	滝沢南	新しいわて
	銅賞	玉井瞭平	滝沢第二	新しいわて
	佳作	小野みらい	沼宮内	新しいわて
	佳作	三浦愛叶	一方井	新しいわて
3年	金賞	菊池遥乃	遠野	いわて花巻
	銀賞	阿部うらら	上野	いわて花巻
	銅賞	菊池真由	遠野	いわて花巻
	佳作	葛巻綾	下小路	いわて中央
	佳作	大坪琉那	種市	新しいわて
佳作	千葉実也子	北陵	いわて中央	

◆書道半紙の部

[特選]

渡辺 菜月 岩大附属中1年 (JA いわて中央)

[小学校]

学年	賞	氏名	学校名	JA名
1年	金賞	田澤孝汰郎	向中野	いわて中央
	銀賞	小田島かな	黒沢尻東	いわて花巻
	銅賞	千葉晴稀	一関・滝沢	いわて平泉
	佳作	瀬川遥馬	城北	いわて中央
	佳作	海道麻佑	向中野	いわて中央
2年	佳作	橋本夏瞳	遠野	いわて花巻
	金賞	長谷部瑛大	城北	いわて中央
	銀賞	真野孝介	桜城	いわて中央
	銅賞	十文字怜心	種市	新しいわて
	佳作	佐々木優李	種市	新しいわて
3年	佳作	柴田旺介	北上・南	いわて花巻
	佳作	佐藤愛理	滝沢中央	新しいわて
	金賞	佐藤大希	鬼柳	いわて花巻
	銀賞	北村花	月が丘	いわて中央
	銅賞	宮野夏帆	青山	いわて中央
4年	佳作	北田朔太郎	日詰	いわて中央
	佳作	鈴木千咲	仁王	いわて中央
	佳作	平野原旺佑	手代森	いわて中央
	金賞	柳谷歩希	鵜飼	新しいわて
	銀賞	菊池陽月	石鳥谷	いわて花巻
5年	銅賞	松田隼輔	城南	いわて中央
	佳作	高橋楓	緑が丘	いわて中央
	佳作	三浦聖愛	一方井	新しいわて
	佳作	川向祐生	沼宮内	新しいわて
	金賞	麦沢和奏	種市	新しいわて
6年	銀賞	菊池美結	遠野北	いわて花巻
	銅賞	伊五澤殊那	渋民	新しいわて
	佳作	横澤結	沼宮内	新しいわて
	佳作	越田沙夏	山目	いわて平泉
	佳作	柴田美空	黒沢尻北	いわて花巻
7年	金賞	耕野玲奈	鵜飼	新しいわて
	銀賞	北田莉央	青山	いわて中央
	銅賞	佐藤日和	盛岡・中野	いわて中央
	佳作	柳谷祐希	鵜飼	新しいわて
	佳作	浜川那々子	遠野	いわて花巻
8年	佳作	多田望桃	東和	いわて花巻

[中学校]

学年	賞	氏名	学校名	JA名
1年	金賞	田澤佳歩	仙北	いわて中央
	銀賞	遠藤心葉	仙北	いわて中央
	銅賞	佐々木蘭	矢巾北	いわて中央
	佳作	青木縁	水沢	岩手ふるさと
	佳作	高橋乃愛	厨川	いわて中央
2年	佳作	内村友紀	下小路	いわて中央
	金賞	柳谷咲希	滝沢南	新しいわて
	銀賞	玉井瞭平	滝沢第二	新しいわて
	銅賞	小野みらい	沼宮内	新しいわて
	佳作	上田涼華	金田一	新しいわて
3年	佳作	野崎莉奈	金田一	新しいわて
	佳作	瀬川ちひろ	北陵	いわて中央
	金賞	渡辺果歩	岩大附属	いわて中央
	銀賞	野崎結夢	浄法寺	新しいわて
	銅賞	古舘歩奈	岩大附属	いわて中央
4年	佳作	菊池真由	遠野	いわて花巻
	佳作	小野寺愛那	磐井	いわて平泉
	佳作	松田純弥	城東	いわて中央

◆絵画の部

[特選]

上森 心鈴 見前小4年 (JA いわて中央)

中島 優里 下橋中3年 (JA いわて中央)

[小学校]

学年	賞	氏名	学校名	JA名
1年	金賞	小野寺隼輝	山目	いわて平泉
	銀賞	高橋碧一	北上・南	いわて花巻
	銅賞	金子莉子	桜台	いわて花巻
	佳作	菊池蒼大	若葉	いわて花巻
	佳作	増井暁音	一関・南	いわて平泉
2年	佳作	琴畑思人	花輪	新しいわて
	金賞	菅原心華	矢沢	いわて花巻
	銀賞	井口奏乃	飯岡	いわて中央
	銅賞	渡辺水都	金ヶ崎・西	岩手ふるさと
	佳作	佐々木ひなた	北上・南	いわて花巻
3年	佳作	梅原恵理	田原	江刺
	佳作	久保田結友	矢沢	いわて花巻
	金賞	千葉真子	一関・南	いわて平泉
	銀賞	足立琥珀	黒沢尻西	いわて花巻
	銅賞	川畑友誠	越喜来	おおふなど
4年	佳作	齋藤佑真	室根	いわて平泉
	佳作	鈴木ひな	萩荘	いわて平泉
	佳作	玉澤璃知	藤沢	いわて平泉
	金賞	大友日菜詩	北上・南	いわて花巻
	銀賞	向井田悠生	厨川	いわて中央
5年	銅賞	城内心穩	花輪	新しいわて
	佳作	相川滯生	江釣子	いわて花巻
	佳作	吉田瑛達	北松園	いわて中央
	佳作	渡辺一真	金ヶ崎・西	岩手ふるさと
	金賞	佐々木煌己	花輪	新しいわて
6年	銀賞	菊池里歩	米崎	おおふなど
	銅賞	高竹愛果	一関・南	いわて平泉
	佳作	井口詩夕	飯岡	いわて中央
	佳作	瀬川楓	若葉	いわて花巻
	佳作	山口虎太郎	石切所	新しいわて
7年	金賞	貫井美結	滝沢第二	新しいわて
	銀賞	高橋一花	北上・南	いわて花巻
	銅賞	大久保知香	日詰	いわて中央
	佳作	小山ゆき野	一関・南	いわて平泉
	佳作	小原桃華	江釣子	いわて花巻
8年	佳作	伊藤なのは	江釣子	いわて花巻

[中学校]

学年	賞	氏名	学校名	JA名
1年	金賞			
	銀賞			
	銅賞	久慈一柁	遠野	いわて花巻
	佳作	佐藤毬乃	湯口	いわて花巻
	佳作			
2年	金賞	佐々木はな	下橋	いわて中央
	銀賞	境谷朱音	下橋	いわて中央
	銅賞	川島涼楓	下橋	いわて中央
	佳作	池口桃花	下橋	いわて中央
	佳作	柏谷智美	下橋	いわて中央
3年	佳作	須藤美海	下橋	いわて中央
	金賞	上中優奈	下橋	いわて中央
	銀賞	多田早嬉	遠野	いわて花巻
	銅賞	阿部來未	下橋	いわて中央
	佳作	武田葉月	下橋	いわて中央
4年	佳作	檜木茉莉亜	葛巻	新しいわて
	佳作	佐々木碧	下橋	いわて中央

◆交通安全ポスターの部

[特選]

鈴木 瑠月 前沢中3年 (JA 岩手ふるさと)

[小学校]

学年	賞	氏名	学校名	JA名
1年	金賞	高橋 碧一	北上・南	いわて花巻
	銀賞	小野 寺勇真	石切所	新しいわて
	銅賞	倉本 晴那	上田	いわて中央
	佳作	昆野 大暉	室根	いわて平泉
	佳作	安海 杏佳	土淵	いわて中央
2年	佳作	菊池 香絵	城南	いわて中央
	金賞	佐々木 結史	飯岡	いわて中央
	銀賞	野上 紗希	金ヶ崎	岩手ふるさと
	銅賞	佐賀 向日葵	金ヶ崎	岩手ふるさと
	佳作	菊池 亮介	前沢	岩手ふるさと
3年	佳作	佐藤 茜	前沢	岩手ふるさと
	佳作	笥 咲月	金ヶ崎	岩手ふるさと
	金賞	太田 柚奈	広瀬	江刺
	銀賞	及川 拓真	広瀬	江刺
	銅賞	賣井 坂晴太	黒沢尻東	いわて花巻
4年	佳作	菊池 咲	広瀬	江刺
	佳作	折居 陽太	黒沢尻東	いわて花巻
	佳作	千葉 結衣	広瀬	江刺
	金賞	佐々木 葵彩	江釣子	いわて花巻
	銀賞	高橋 悠斗	江釣子	いわて花巻
5年	銅賞	中村 龍翠	前沢	岩手ふるさと
	佳作	小野 寺花紋	一戸	新しいわて
	佳作	及川 はな	小友	おおふなと
	佳作	木村 華	水沢南	岩手ふるさと
	金賞	後藤 風花	江釣子	いわて花巻
6年	銀賞	吉田 羽那	江釣子	いわて花巻
	銅賞	佐々木 優妃	飯岡	いわて中央
	佳作	及川 由愛	藤里	江刺
	佳作	鈴木 琉衣	江釣子	いわて花巻
	佳作	伊藤 翠来	江釣子	いわて花巻
1年	金賞	小野 寺愛澄	猿沢	いわて平泉
	銀賞	関村 璃那	広瀬	江刺
	銅賞	菊池 慶晃	水沢	岩手ふるさと
	佳作	高橋 怜音	広瀬	江刺
	佳作	菊池 真乎	広瀬	江刺
2年	佳作	小野 寺一輝	猿沢	いわて平泉
	金賞	村上 美咲	胆沢	岩手ふるさと
	銀賞	平野 愛佳	下橋	いわて中央
	銅賞	佐々木 美空	胆沢	岩手ふるさと
	佳作	木村 妃奈乃	盛岡・河南	いわて中央
3年	佳作	小松 玲那	遠野	いわて花巻
	佳作	千田 莉子	胆沢	岩手ふるさと
	金賞	村上 結	胆沢	岩手ふるさと
	銀賞	山蔭 絢萌	遠野	いわて花巻
	銅賞	佐藤 祐李	遠野	いわて花巻
4年	佳作	藤澤 美優	盛岡・河南	いわて中央
	佳作	菅原 望夢	胆沢	岩手ふるさと
	佳作	留場 心咲	遠野	いわて花巻
	金賞	菊池 咲花	遠野	いわて花巻
	銀賞	菅原 滯	遠野	いわて花巻
5年	銅賞			
	佳作	下河原 悠也	厨川	いわて中央
	佳作			
6年	佳作			
	佳作			

[中学校]

学年	賞	氏名	学校名	JA名
1年	金賞	村上 美咲	胆沢	岩手ふるさと
	銀賞	平野 愛佳	下橋	いわて中央
	銅賞	佐々木 美空	胆沢	岩手ふるさと
	佳作	木村 妃奈乃	盛岡・河南	いわて中央
	佳作	小松 玲那	遠野	いわて花巻
2年	佳作	千田 莉子	胆沢	岩手ふるさと
	金賞	村上 結	胆沢	岩手ふるさと
	銀賞	山蔭 絢萌	遠野	いわて花巻
	銅賞	佐藤 祐李	遠野	いわて花巻
	佳作	藤澤 美優	盛岡・河南	いわて中央
3年	佳作	菅原 望夢	胆沢	岩手ふるさと
	佳作	留場 心咲	遠野	いわて花巻
	金賞	菊池 咲花	遠野	いわて花巻
	銀賞	菅原 滯	遠野	いわて花巻
	銅賞			
4年	佳作	下河原 悠也	厨川	いわて中央
	佳作			
	佳作			

団体賞 (優秀学校賞)

◆作文の部

岩手県立一関第一高等学校附属中学校 (JAいわて平泉)

◆書道の部

滝沢市立鶴飼小学校 (JA新しいわて)

◆絵画の部

盛岡市立下橋中学校 (JAいわて中央)

◆交通安全ポスターの部

北上市立江釣子小学校 (JAいわて花巻)

特別賞

◆岩手県知事賞 (作文)

菊池 大杜 (向中野小1年)

◆岩手県知事賞 (絵画)

中島 優里 (下橋中3年)

◆岩手県教育委員会教育長賞 (作文)

佐藤 凜歩 (岩大附属中3年)

◆岩手県警察本部長賞 (交通安全ポスター)

鈴木 瑠月 (前沢中3年)

◆岩手日報社社長賞 (書道・条幅)

柳谷 歩希 (鶴飼小4年)

◆IBC岩手放送社長賞 (絵画)

上森 心鈴 (見前小4年)

◆テレビ岩手社長賞 (書道・半紙)

渡辺 菜月 (岩大附属中1年)

◆岩手めんこいテレビ社長賞

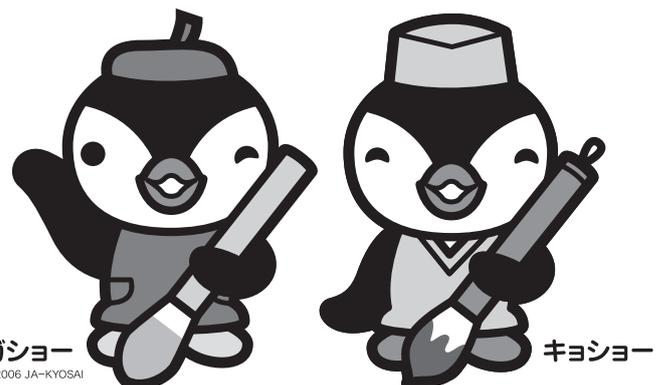
盛岡市立飯岡小学校 (JAいわて中央)

◆岩手朝日テレビ社長賞

遠野市立遠野中学校 (JAいわて花巻)

◆エフエム岩手社長賞

奥州市立木細工小学校 (JA江刺)



ガシヨー

© 2006 JA-KYOSAI

キョシヨー

たくさんのご応募ありがとうございました。
次回も元気な作品をお待ちしております。

かけがえのないお子様の将来のために
大きな夢を応援したい



ガショー



キョショー

© 2006 JA-KYOSAI

JA 新いわて
JA いわて中央
JA いわて花巻
JA 岩手ふるさと

JA 江 刺
JA いわて平泉
JA おおふなと